




# Dell OptiPlex 9020 ウルトラスモールフォームファクター オーナーズマニュアル

規制モデル: D06U  
規制タイプ: D06U001



# メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2013 Dell Inc.

本書で使用されている商標 : Dell™、DELL ロゴ、Dell Precision™、Precision ON™、ExpressCharge™、Latitude™、Latitude ON、™ OptiPlex™、Vostro™、および Wi-Fi Catcher™ は Dell Inc. の商標です。Intel®、Pentium®、Xeon®、Core™、Atom™、Centrino®、および Celeron® は米国およびその他の国における Intel Corporation の登録商標または商標です。AMD® は Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標、AMD Opteron™、AMD Phenom™、AMD Sempron™、AMD Athlon™、ATI Radeon™、および ATI FirePro™ は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。Microsoft®、Windows®、MS-DOS®、Windows Vista®、Windows Vista スタートボタン、および Office Outlook® は米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Blu-ray Disc™ は Blu-ray Disc Association (BDA) が所有する商標で、ディスクおよびプレーヤーで使用するライセンスを取得しています。Bluetooth® の文字マークは Bluetooth® SIG, Inc. が所有する登録商標で、Dell Inc. はそのようなマークを取得ライセンスのもとに使用しています。Wi-Fi® は Wireless Ethernet Compatibility Alliance, Inc. の登録商標です。

2013 - 06

Rev. A00

# 目次

<b>1 コンピューター内部の作業</b> .....	<b>5</b>
コンピューター内部の作業を始める前に.....	5
コンピューターの電源を切る.....	6
コンピューター内部の作業を終えた後に.....	6
<b>2 コンポーネントの取り外しと取り付け</b> .....	<b>7</b>
奨励するツール.....	7
システムの概要.....	7
内面図.....	7
カバーの取り外し.....	8
カバーの取り付け.....	8
前面ベゼルの取り外し.....	8
前面ベゼルの取り付け.....	9
ドライブケースの取り外し.....	9
ドライブケースの取り付け.....	10
ワイヤレスローカルエリアネットワーク (WLAN) カードの取り外し.....	10
WLAN カードの取り付け.....	12
オプティカルドライブの取り外し.....	12
オプティカルドライブの取り付け.....	13
ハードディスクドライブの取り外し.....	13
ハードディスクドライブの取り付け.....	14
インテルジョンスイッチの取り外し.....	14
インテルジョンスイッチの取り付け.....	14
メモリモジュールのガイドライン.....	15
メモリの取り外し.....	15
メモリの取り付け.....	15
スピーカーの取り外し.....	16
内蔵スピーカの取り付け.....	17
電源スイッチボードの取り外し.....	18
電源スイッチボードの取り付け.....	18
入力/出力 (I/O) パネルの取り外し.....	19
I/O パネルの取り付け.....	20
電源ユニットの取り外し.....	20
電源ユニットの取り付け.....	21
ヒートシンクアセンブリの取り外し.....	21
ヒートシンクアセンブリの取り付け.....	23
プロセッサの取り外し.....	23
プロセッサの取り付け.....	24


コイン型電池の取り外し.....	24
コイン型バッテリーの取り付け.....	24
システムファンの取り外し.....	25
システムファンの取り付け.....	26
システム基板の取り外し.....	26
システム基板のレイアウト.....	27
システム基板の取り付け.....	28
<b>3 システムセットアップ.....</b>	<b>29</b>
起動順序.....	29
ナビゲーションキー.....	29
セットアップオプション.....	30
BIOS のアップデート.....	40
ジャンパの設定.....	40
システムパスワードとセットアップパスワード.....	40
システムパスワードとセットアップパスワードの割り当て.....	41
既存のシステムパスワードおよび/またはセットアップパスワードの削除または変更.....	41
システムパスワードを無効にする.....	42
<b>4 診断.....</b>	<b>43</b>
ePSA (強化された起動前システムアセスメント) 診断.....	43
<b>5 コンピューターのトラブルシューティング.....</b>	<b>44</b>
電源 LED 診断.....	44
ビープコード.....	45
エラーメッセージ.....	45
<b>6 仕様.....</b>	<b>50</b>
<b>7 デルへのお問い合わせ.....</b>	<b>57</b>


# コンピューター内部の作業


## コンピューター内部の作業を始める前に


コンピューターの損傷を防ぎ、ユーザー個人の安全を守るため、以下の安全に関するガイドラインに従ってください。特記がない限り、本書に記載される各手順は、以下の条件を満たしていることを前提とします。


- コンピューターに付属の「安全に関する情報」を読んでいること。
- コンポーネントは交換可能であり、別売りの場合は取り外しの手順を逆順に実行すれば、取り付け可能であること。


 **警告:** コンピューター内部の作業を始める前に、コンピューターに付属の「安全に関する情報」に目を通してください。安全に関するベストプラクティスについては、規制コンプライアンスに関するホームページ ([www.dell.com/regulatory\\_compliance](http://www.dell.com/regulatory_compliance)) を参照してください。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **注意:** 静電気による損傷を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用するか、またはコンピューターの裏面にあるコネクタなどの塗装されていない金属面に定期的に触れて、静電気を身体から除去してください。


 **注意:** コンポーネントとカードは丁寧に取り扱いってください。コンポーネント、またはカードの接触面に触らないでください。カードは端、または金属のマウンティングブラケットを持ってください。プロセッサなどのコンポーネントはピンではなく、端を持ってください。

 **注意:** ケーブルを外す場合は、ケーブルのコネクタかプルタブを持って引き、ケーブル自体を引っ張らないでください。コネクタにロックタブが付いているケーブルもあります。この場合、ケーブルを外す前にロックタブを押さえてください。コネクタを引き抜く場合、コネクタピンが曲がらないように、均一に力をかけてください。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが同じ方向を向き、きちんと並んでいることを確認してください。

 **メモ:** お使いのコンピューターの色および一部のコンポーネントは、本書で示されているものと異なる場合があります。

コンピューターの損傷を防ぐため、コンピューター内部の作業を始める前に、次の手順を実行してください。

1. コンピューターのカバーに傷がつかないように、作業台が平らであり、汚れていないことを確認します。
2. コンピューターの電源を切ります（「コンピューターの電源を切る」を参照）。






 **注意:** ネットワークケーブルを外すには、まずケーブルのプラグをコンピューターから外し、次にケーブルをネットワークデバイスから外します。

3. コンピューターからすべてのネットワークケーブルを外します。
4. コンピューターおよび取り付けられているすべてのデバイスをコンセントから外します。
5. システムのコンセントが外されている状態で、電源ボタンをしばらく押して、システム基板の静電気を除去します。
6. カバーを取り外します。

△ 注意: コンピューターの内部に触れる前に、コンピューターの裏面など塗装されていない金属面に触れ、静電気を除去します。作業中は定期的に塗装されていない金属面に触れ、内部コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を放出してください。

## コンピューターの電源を切る

△ 注意: データの損失を防ぐため、コンピューターの電源を切る前に、開いているファイルはすべて保存して閉じ、実行中のプログラムはすべて終了してください。

- オペレーティングシステムをシャットダウンします。
  - Windows 8 では:
    - タッチパネル入力を有効にするデバイスの用法:
      - 画面の右端からスワイプ入力し、チャームメニューを開き、**Settings** (設定) を選択します。
      -  を選択し、続いて**シャットダウン**を選択します。
    - マウスの用法:
      - 画面の右上隅をポイントし、**Settings** (設定) をクリックします。
      - ライセンス情報を展開または折りたたむには、 続いて **Shut down** (シャットダウン) を選択します。
  - Windows 7 の場合 :
    - スタート** をクリックします。  をクリックします。
    - Shut Down** (シャットダウン) をクリックします。または
    - スタート** をクリックします。  をクリックします。
    - 下に示すように **Start** (開始) メニューの右下隅の矢印をクリックして、**Shut Down** (シャットダウン) をクリックします。
- コンピューターと取り付けられているデバイスすべての電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンしてもコンピューターとデバイスの電源が自動的に切れない場合、電源ボタンを 6 秒間押したままにして電源を切ります。

## コンピューター内部の作業を終えた後に

交換 (取り付け) 作業が完了したら、コンピューターの電源を入れる前に、外付けデバイス、カード、ケーブルなどが接続されていることを確認してください。

- カバーを取り付けます。

△ 注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次にコンピューターに差し込みます。
- 電話線、またはネットワークケーブルをコンピューターに接続します。
- コンピューター、および取り付けられているすべてのデバイスをコンセントに接続します。
- コンピューターの電源を入れます。
- 必要に応じて **Dell** 診断を実行して、コンピューターが正しく動作することを確認します。

## コンポーネントの取り外しと取り付け

このセクションには、お使いのコンピューターからコンポーネントを取り外し、取り付ける手順についての詳細な情報が記載されています。

### 奨励するツール

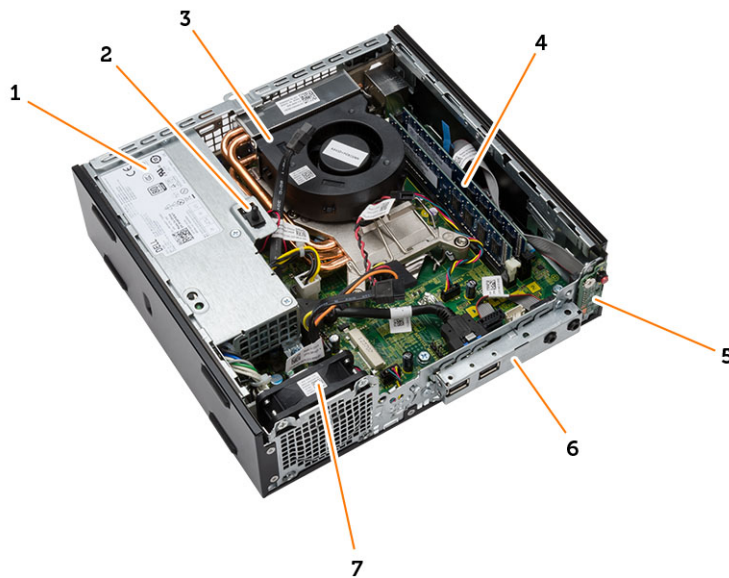
この文書で説明する操作には、以下のツールが必要です。

- 細めのマイナスドライバー
- プラスドライバー
- 小型のプラスチックスクライブ

### システムの概要

以下の図はベースカバーを取り外した後のウルトラスモールフォームファクターの内面図です。吹き出しはコンピューター内部のコンポーネントの名前とレイアウトを表示しています。

#### 内面図



1. 電源ユニット
2. インタラージョンスイッチ
3. プロセッサファンとヒートシンク
4. メモリモジュール
5. 電源スイッチ

6. 入力/出力 (I/O) パネル
7. システムファン

## カバーの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 蝶ネジを反時計方向に回し、カバーを手前にスライドさせて持ち上げてコンピューターから取り外します。

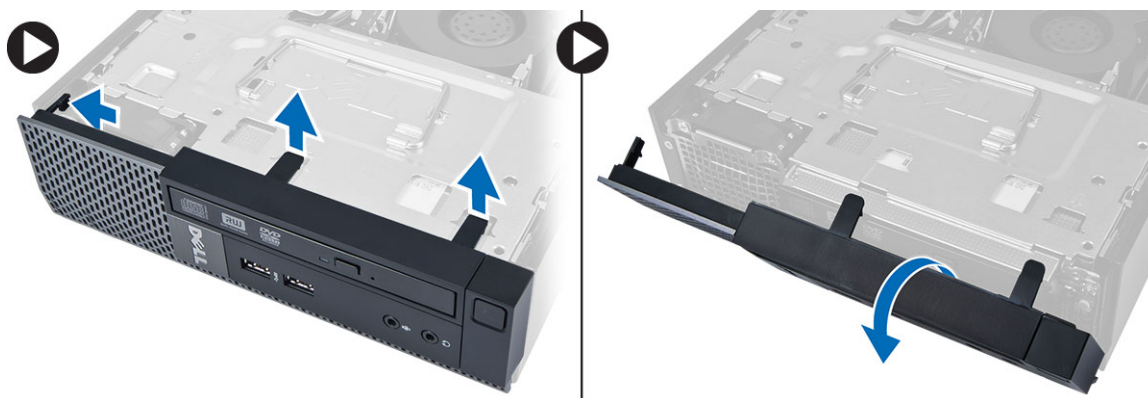


## カバーの取り付け

1. コンピューターにカバーをセットします。
2. ぴったりとかみ合うまでコンピューター カバーをシャーシ前面方向にスライドします。
3. ネジを時計回りに締め、コンピューターカバーを固定します。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## 前面ベゼルの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. カバーを取り外します。
3. 前面ベゼル固定クリップをシャーシからこの作用で取り出します。
4. コンピューターから前面ベゼルの解除し、シャーシから前面ベゼルを取り出します。

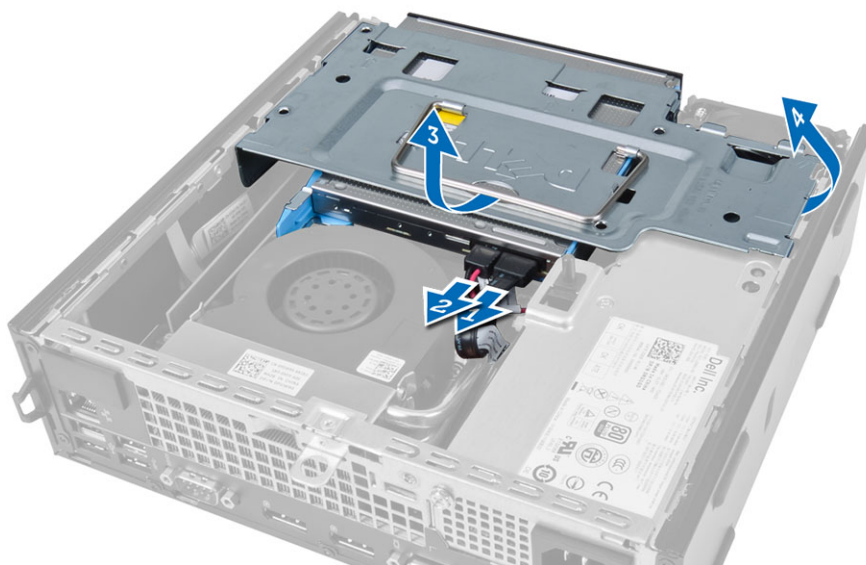


## 前面ベゼルの取り付け

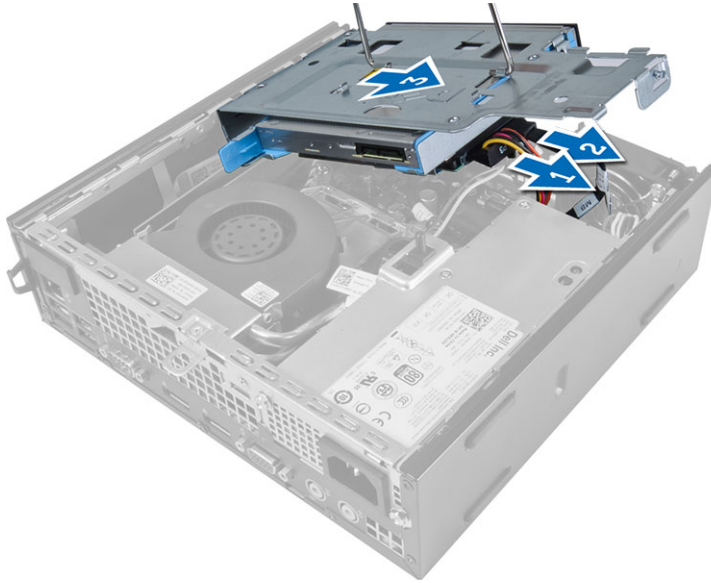
1. シャーシのスロットにある前面パネルの下端に沿ってフックを差し込みます。
2. ベゼルをコンピューターに向かって回転させ、カチッと所定の位置に収まるまで、前面ベゼル固定クリップを固定させます。
3. カバーを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## ドライブケージの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
3. データケーブルと電源ケーブルをオプティカルドライブから外します。ハンドルを使ってドライブケージを持ち上げ、ハードドライブケーブルを接続します。



4. データケーブルと電源ケーブルをハードドライブの背面から外し、ドライブケージをコンピューターから取り外します。

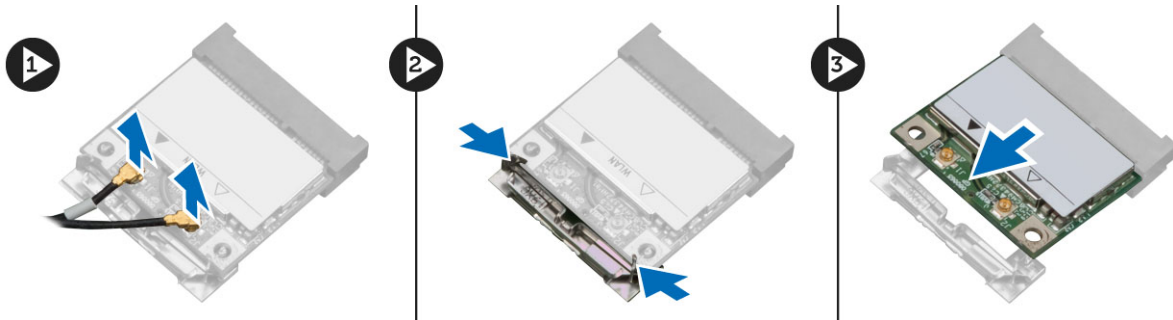


## ドライブケージの取り付け

1. ドライブケージをコンピューターの端に置き、ハードドライブのケーブルコネクタにアクセスできるようにします。
2. ハードドライブの背面にデータケーブルと電源ケーブルを接続します。
3. シャーシに挿入します。
4. オプティカルドライブの背面にデータケーブルと電源ケーブルを接続します。
5. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. 前面ベゼル
  - b. カバー
6. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## ワイヤレスローカルエリアネットワーク (WLAN) カードの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケージ
3. アンテナケーブルを WLAN カードから外します。カードが飛び出すまでコネクタ上のクリップをこの作用で持ち上げます。WLAN カードを持ち上げてコンピューターから取り外します。



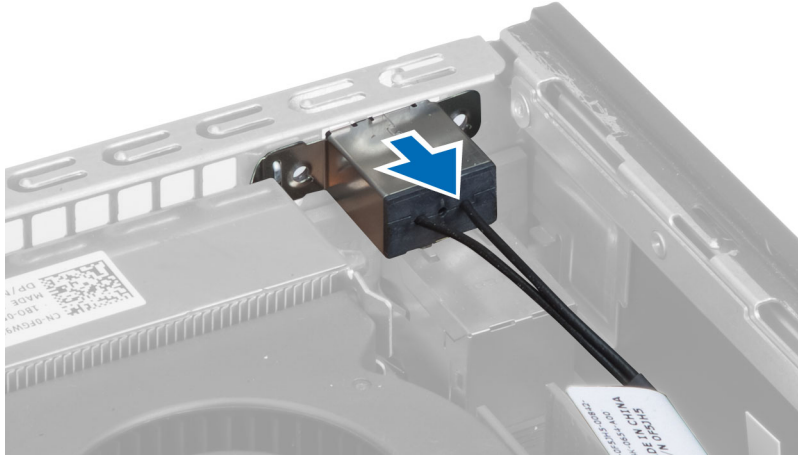
4. アンテナケーブルをコンピューターから引き抜きます。



5. アンテナパックをコネクタに固定しているネジを外します。アンテナパックをコンピューターから引き出します。



6. アンテナコネクタをスライドさせてコンピューターから取り外します。

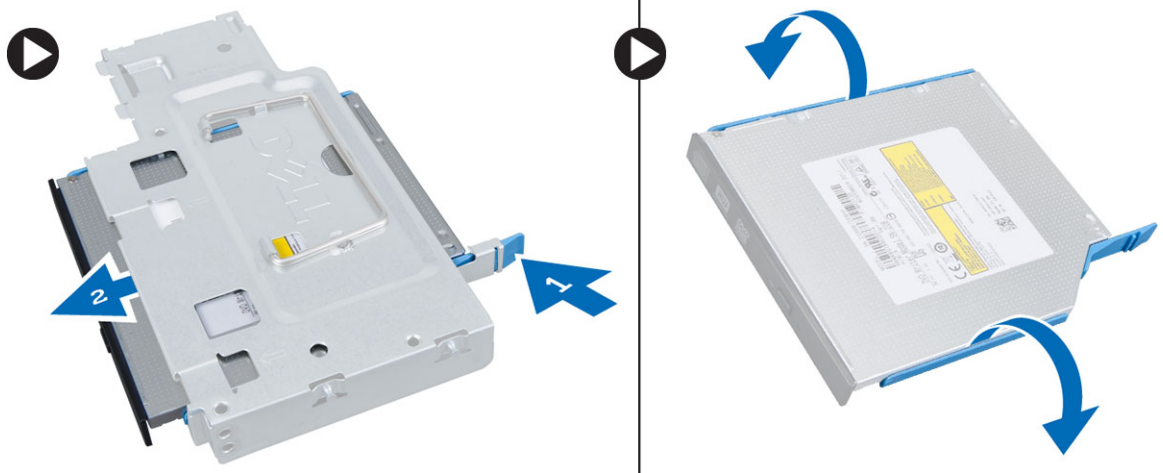


## WLAN カードの取り付け

1. コネクタをコンピューターのスロットの内側に合わせセットします。
2. アンテナパックをコネクタに合わせます。ネジを締めてアンテナパックをアンテナコネクタに固定します。
3. ケーブルをコンピューターに沿って取り付けます。
4. WLAN カードをスロットにスライドさせ、固定レバーアンテナで所定の位置にロックされるまで押し下げます。
5. WLAN カードにアンテナケーブルを接続します。
6. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケージ
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー
7. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## オプティカルドライブの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケージ
3. オプティカルドライブラッチを押して、次にオプティカルドライブをスライドさせてドライブケージから取り外します。オプティカルドライブブラケットを曲げて、オプティカルドライブをブラケットから取り外します。

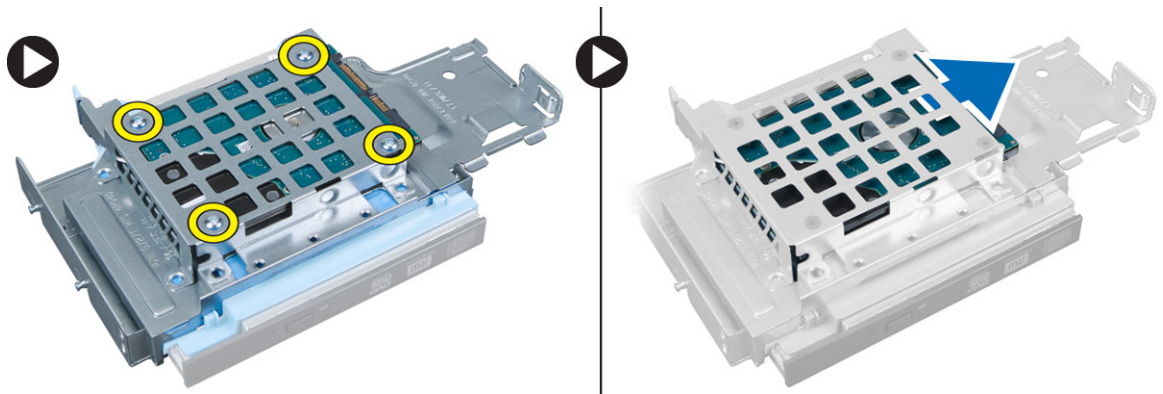


## 光学ドライブの取り付け

1. 光学ドライブブラケットに光学ドライブを差し込みます。
2. 光学ドライブをドライブケースに差し込みます。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケース
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## ハードディスクドライブの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケース
3. ハードディスクドライブをドライブケースに固定しているネジを外します。ハードディスクドライブをスライドさせてドライブケースから取り外します。

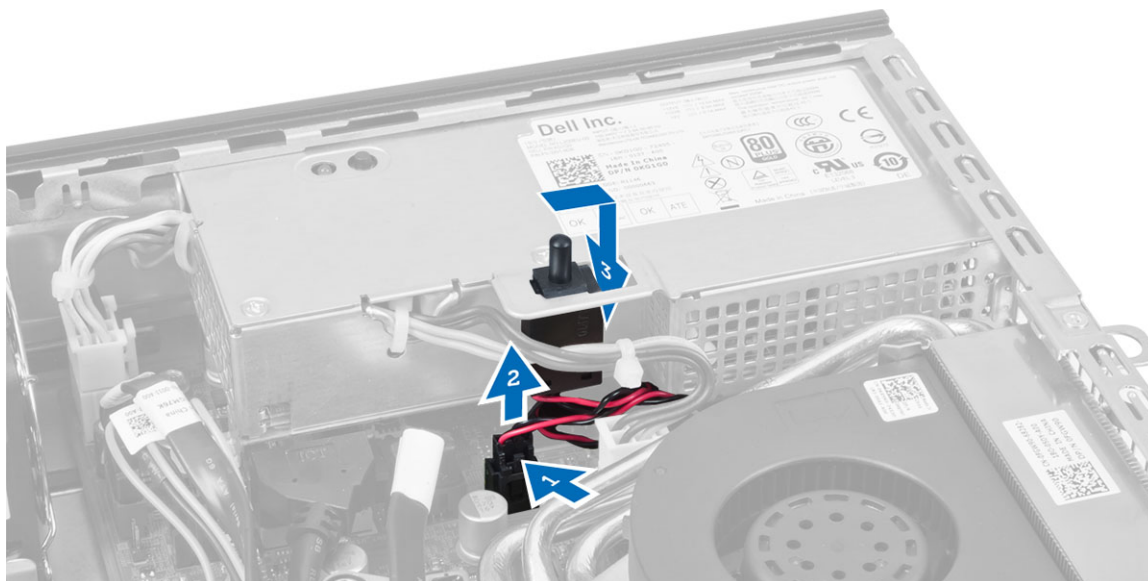


## ハードディスクドライブの取り付け

1. ハードドライブをドライブケースに差し込みます。
2. ハードドライブをドライブケースに固定するネジを締めます。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケース
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## イントルージョンスイッチの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケース
3. イントルージョンスイッチケーブルをシステム基板から取り外します。イントルージョンスイッチをスライドさせてシャーシから取り外します。




## イントルージョンスイッチの取り付け

1. イントルージョンスイッチを電源ユニットのブラケットに差し込み、スライドして固定します。
2. イントルージョンスイッチケーブルをシステム基板に接続します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケース
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

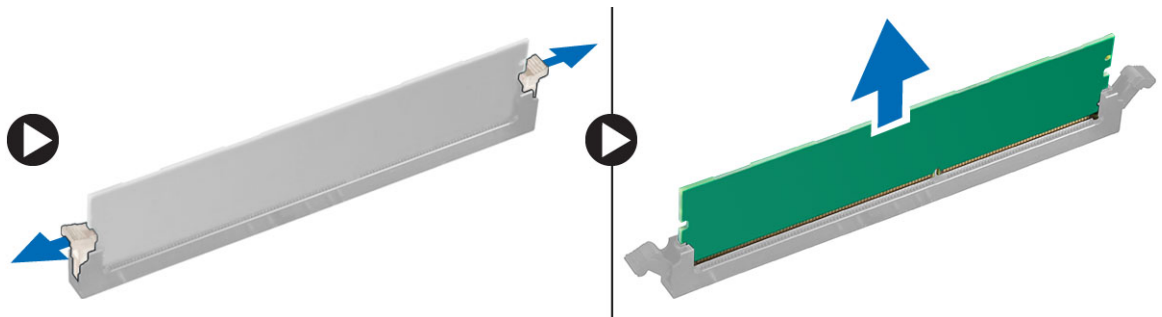
## メモリモジュールのガイドライン

お使いのコンピューターの最適なパフォーマンスを実現するには、システムメモリを構成する際に以下の一般的なガイドラインに従ってください。

- 異なるサイズのメモリモジュール（たとえば 2 GB と 4 GB）を混在させることはできますが、メモリモジュールを装着するチャンネルはすべて同一の構成にする必要があります。
- メモリモジュールは最初のソケットから取り付ける必要があります。  
 **メモ:** お使いのコンピューターのメモリソケットはハードウェアの構成により異なる形式でラベル付けすることができます。例えば、A1、A2 または 1、2、3 です。
- クアドランクのメモリモジュールをシングルまたはデュアルランクのモジュールと混在させる場合、クアドランクのモジュールは白色のリリースレバーが付いたソケットに取り付ける必要があります。
- 速度の異なるメモリモジュールを取り付けた場合は、取り付けられているメモリモジュールの中で最も遅いものの速度で動作します。

## メモリの取り外し

- 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
- 次のコンポーネントを取り外します。
  - カバー
  - 前面ベゼル
  - ドライブケージ
- メモリモジュールの両側にあるメモリ固定クリップを押し下げ、メモリモジュールを持ち上げながらシステム基板のコネクターから取り出します。

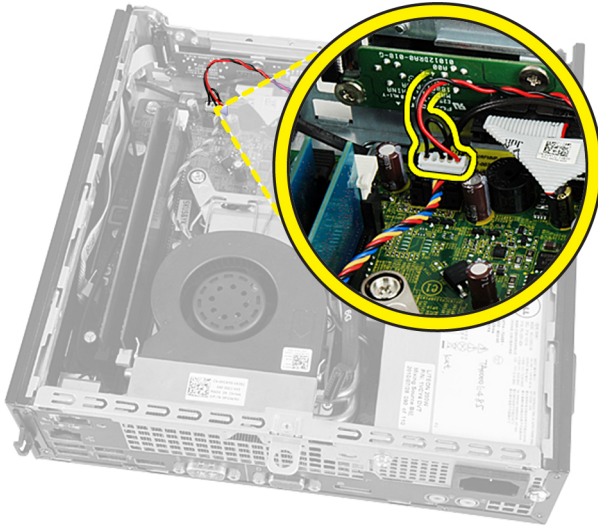


## メモリの取り付け

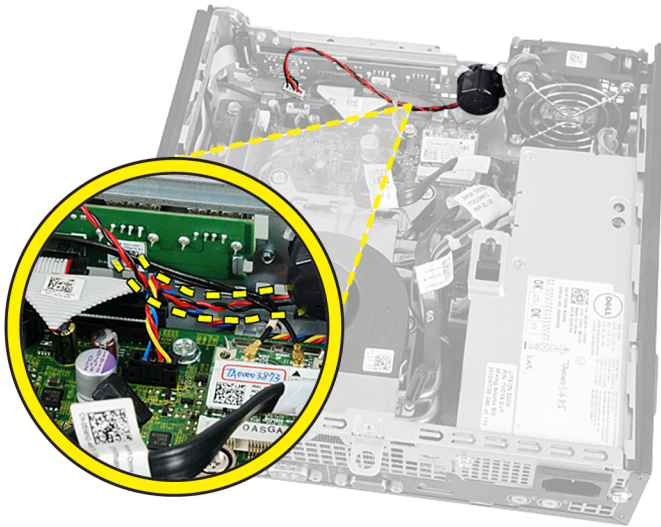
- メモ리카ードの切り込みをシステム基板のコネクターのタブに合わせます。
- メモリモジュールを、リリースタブが押し戻されて、所定の位置に固定されるまで押し下げます。
- 次のコンポーネントを取り付けます。
  - ドライブケージ
  - 前面ベゼル
  - カバー
- 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## スピーカーの取り外し

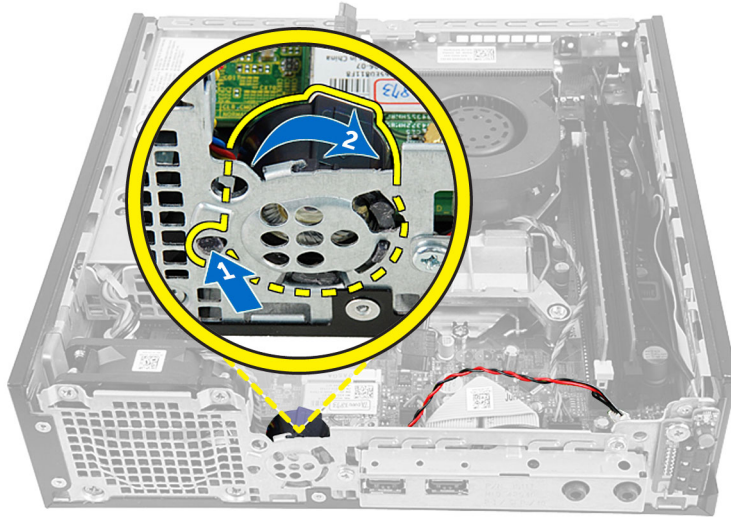
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケージ
3. スピーカーケーブルをシステム基板から外します。



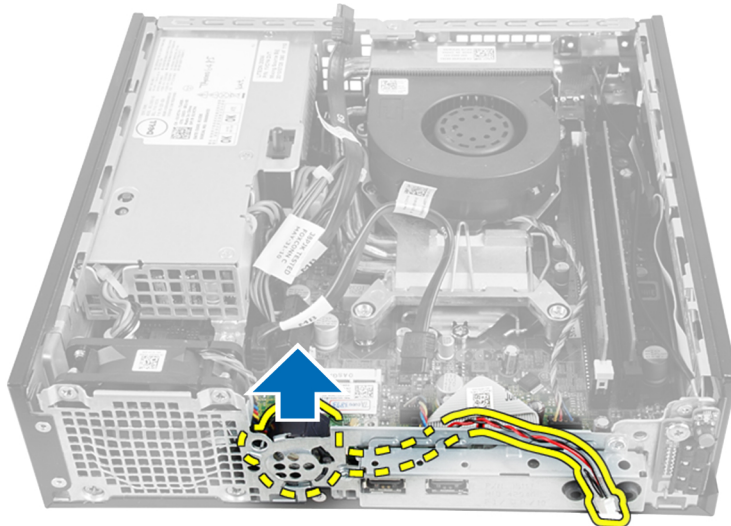
4. スピーカーケーブルをシステムファンケーブルと WLAN アンテナケーブル（取り付けられている場合）の下から取り外します。



5. ラッチを解除して、スピーカーをロック解除位置に回転させます。



6. スピーカーをシャーシから取り外します。

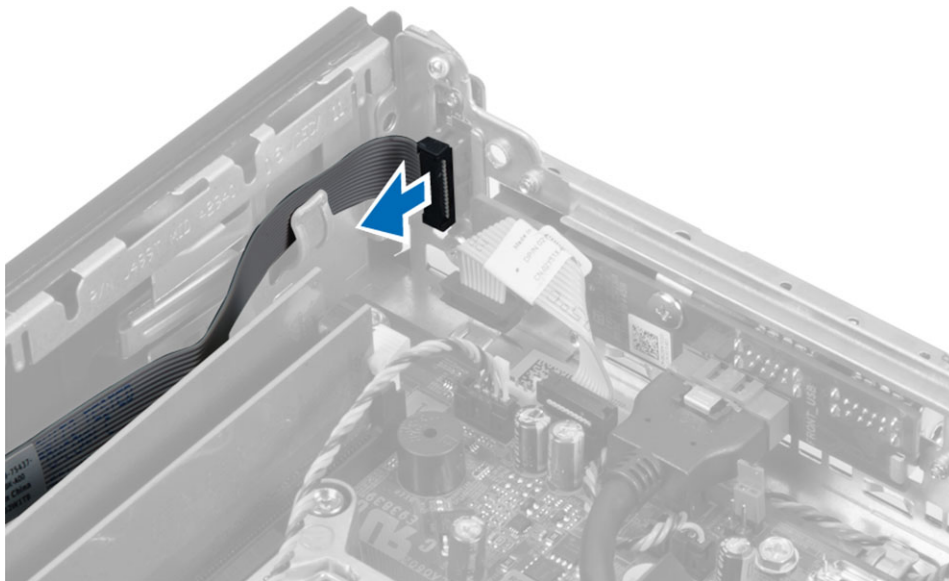


## 内蔵スピーカの取り付け

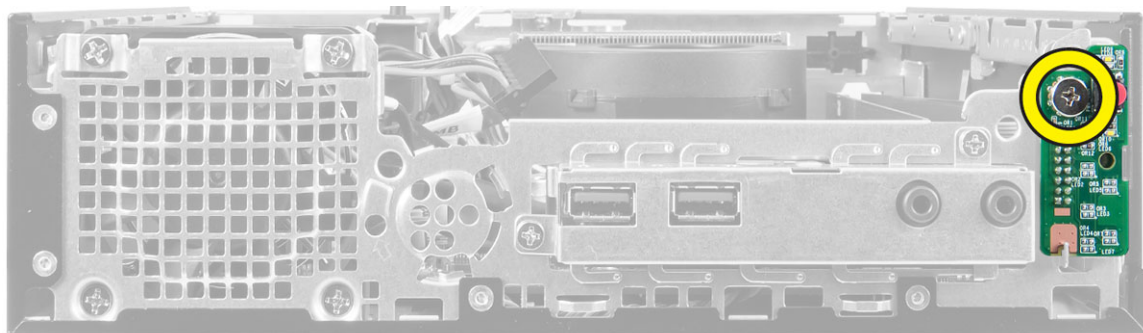
1. スピーカーをシャーシのスロット内に置きます。
2. カチッと所定の位置に収まるまでラッチを回転させます。
3. スピーカーケーブルをシステムファンケーブルと WLAN アンテナケーブル（取り付けられている場合）の下に配線します。
4. システム基板にスピーカーケーブルを接続します。
5. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケース
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー
6. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## 電源スイッチボードの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケース
3. 電源スイッチケーブルを電源スイッチ基板から外します。



4. ネジを外し、電源スイッチ基板をコンピューターから取り出します。



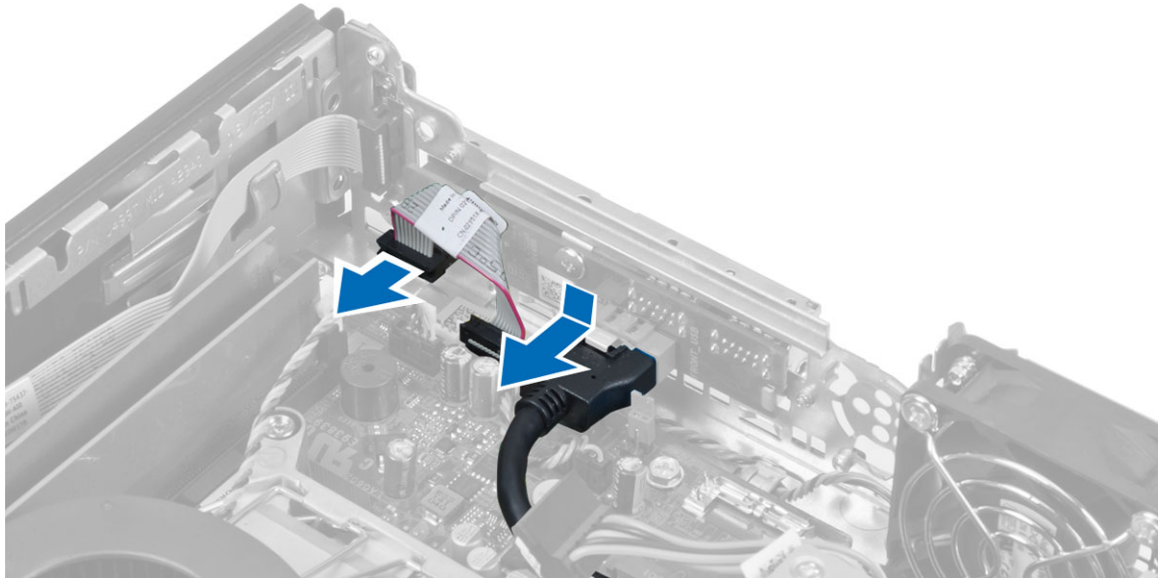
## 電源スイッチボードの取り付け

1. コンピューターの前面に電源スイッチ基板を合わせて、ネジを締めます。
2. 電源スイッチケーブルを電源スイッチ基板に接続します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケース
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー

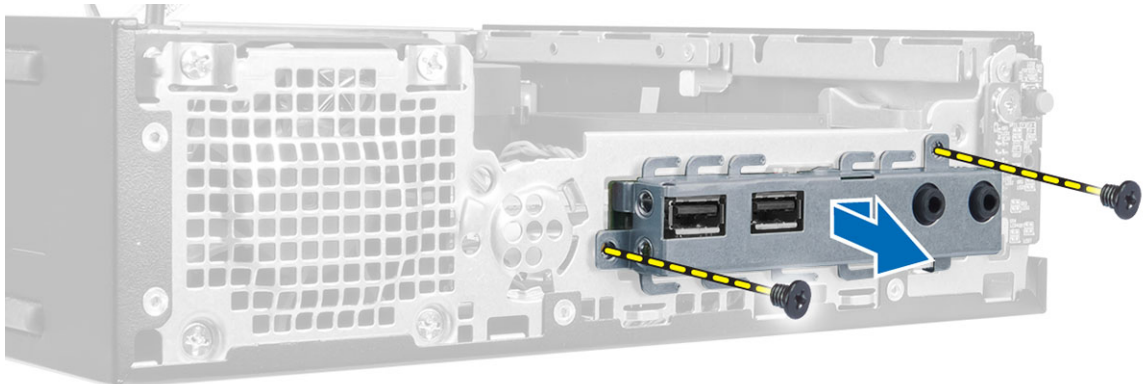
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## 入力/出力 (I/O) パネルの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケージ
3. オーディオケーブルと USB ケーブルを I/O パネルから外します。



4. ネジを外し、I/O パネルをコンピューターの左側にスライドさせて解除し、コンピューターから取り出します。



5. I/O パネルをブラケットに固定しているネジを外します。

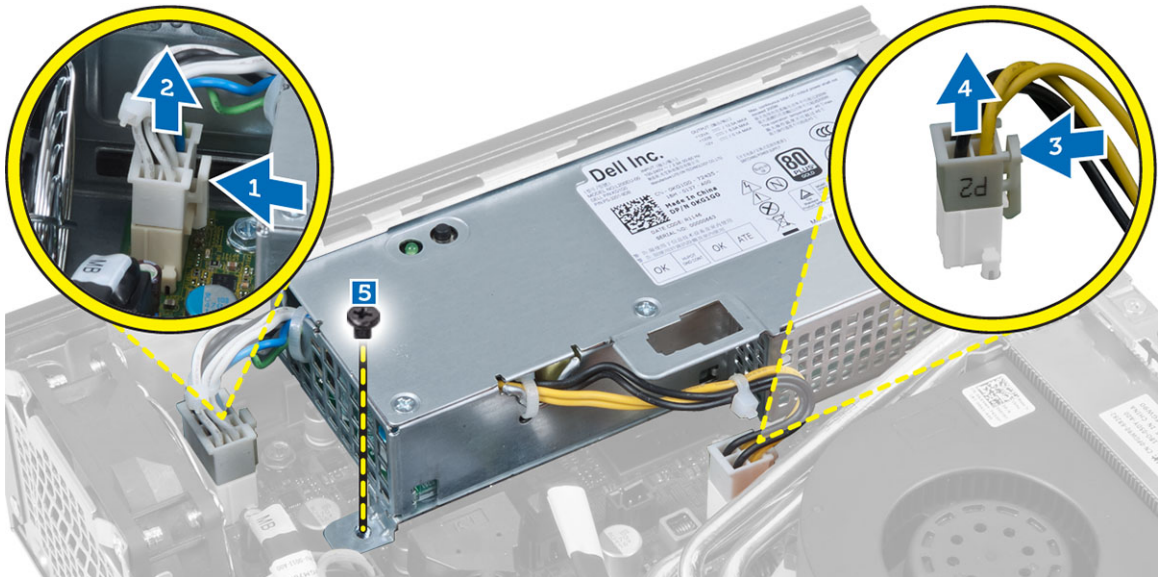


## I/O パネルの取り付け

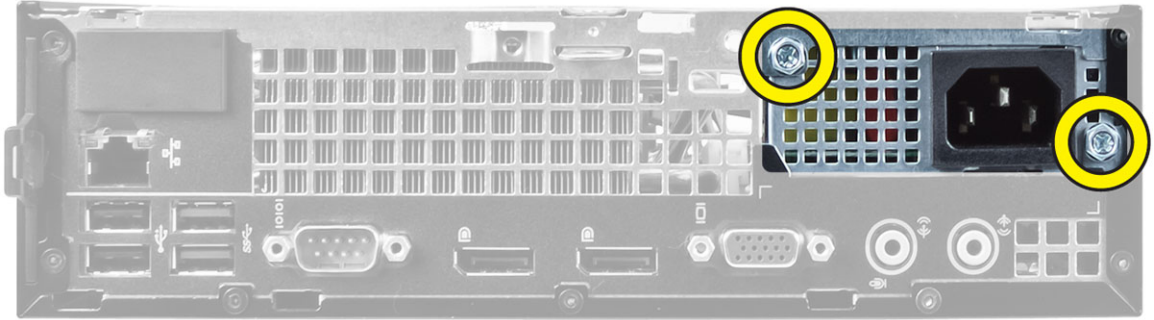
1. I/O パネルを I/O パネルブラケットの位置に合わせて、ネジを締めて I/O パネルを固定します。
2. シャーシ前面のスロットに I/O パネルを差し込みます。
3. ネジを締め I/O パネルをコンピューターに固定します。
4. オーディオケーブルと USB ケーブルを I/O パネルを接続します。
5. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケース
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー
6. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」 の手順に従います。

## 電源ユニットの取り外し

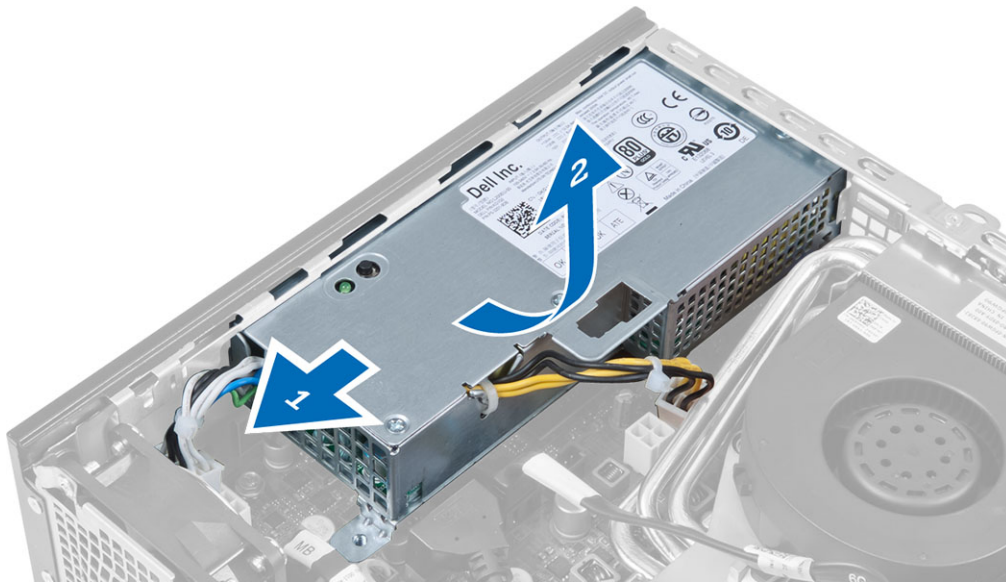
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」 の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケース
  - d. インターロックスイッチ
3. 電源ケーブルを外し、電源ユニットをシステム基板に固定しているネジを外します。



4. 電源ユニットをシャーシに固定しているネジを外します。



5. 電源ユニットを内側にスライドさせ、電源ユニットを持ち上げながらコンピューターから取り出します。



## 電源ユニットの取り付け

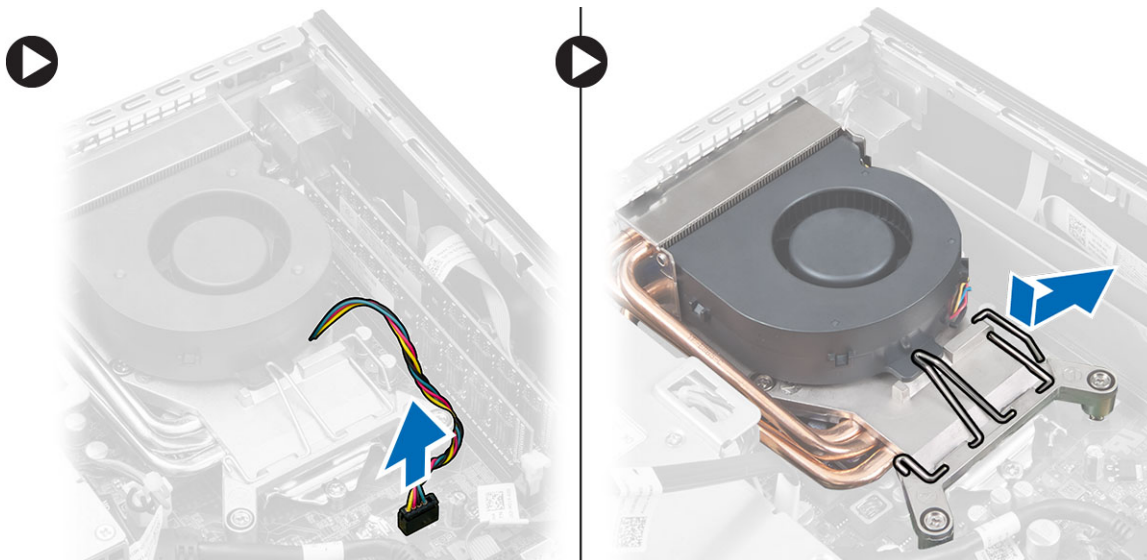
1. 電源ユニットをシャーシにセットし、外側にスライドさせて固定します。
2. 電源装置をコンピューターの背面に固定するネジを締めます。
3. 電源ユニットをシャーシに固定するネジを締めます。
4. 電源ケーブルをシステム基板に接続します。
5. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. インタレーションスイッチ
  - b. ドライブケージ
  - c. 前面ベゼル
  - d. カバー
6. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## ヒートシンクアセンブリの取り外し

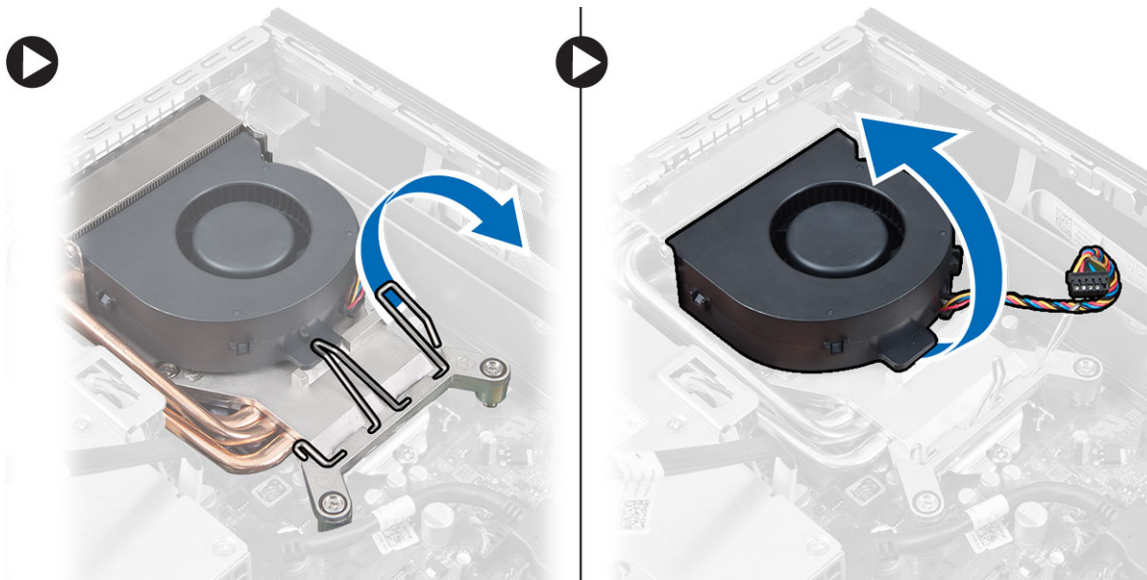
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー

- b. 前面ベゼル
- c. ドライブケージ

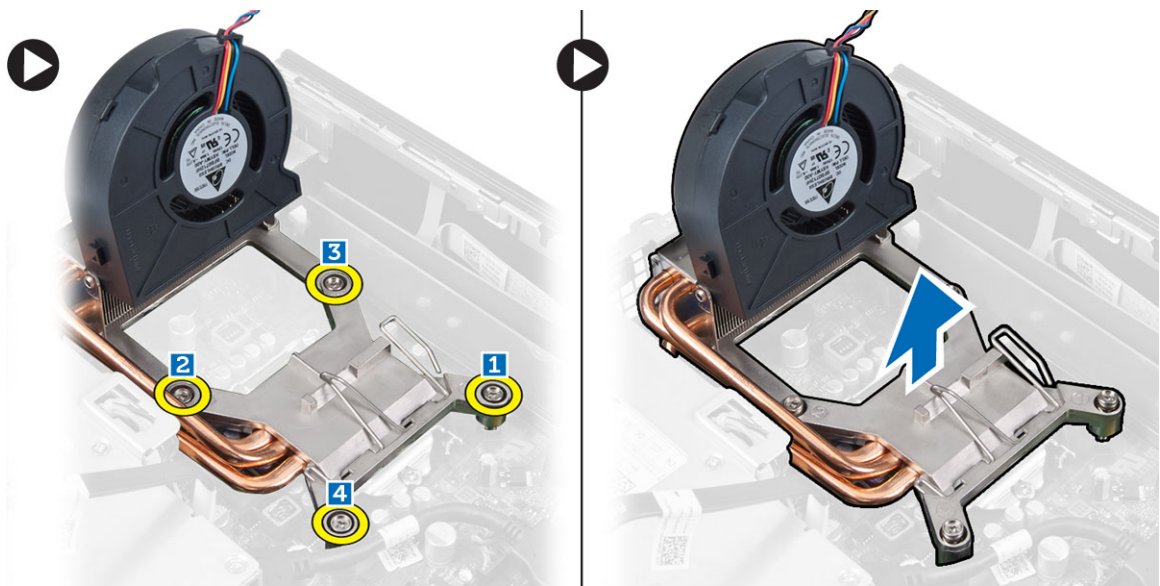
3. ファンケーブルを外し、リリースレバーを外側に押し下げてファン固定フックを取り外します。



4. リリースレバーを動かしてファンの上部を持ち上げます。



5. 拘束ネジを緩め、ヒートシンクアセンブリを持ち上げて、コンピューターから取り外します。



## ヒートシンクアセンブリの取り付け

1. ヒートシンクアセンブリをシャーシにセットします。
2. ファンを持ち上げて、拘束ネジを締め、ヒートシンクアセンブリをシステム基板に固定します。
3. リリースレバーを下げ、内側に押しながら、ファン固定フックを固定します。
4. ファンケーブルをシステム基板に接続します。
5. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケージ
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー
6. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## プロセッサの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケージ
  - d. ヒートシンクアセンブリ
3. リリースレバーを押し下げてから、外側に移動させて固定フックから外します。プロセッサカバーを持ち上げ、ソケットからプロセッサを取り外します。

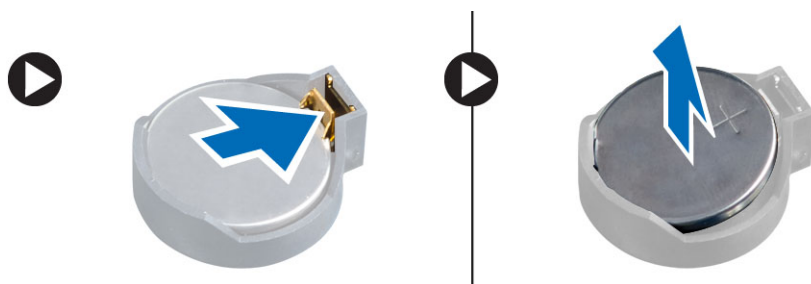


## プロセッサの取り付け

1. プロセッサをプロセッサソケットに差し込みます。プロセッサが正しい位置に設置されていることを確認します。
2. リリースレバーを押し下げ、内側に移動させて固定フックで固定します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ヒートシンクアセンブリ
  - b. ドライブケージ
  - c. 前面ベゼル
  - d. カバー
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## コイン型電池の取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケージ
  - d. ヒートシンク
3. リリースラッチを押してバッテリーから外します。バッテリーがソケットから飛び出したら、バッテリーを持ち上げてコンピューターから取り出します。



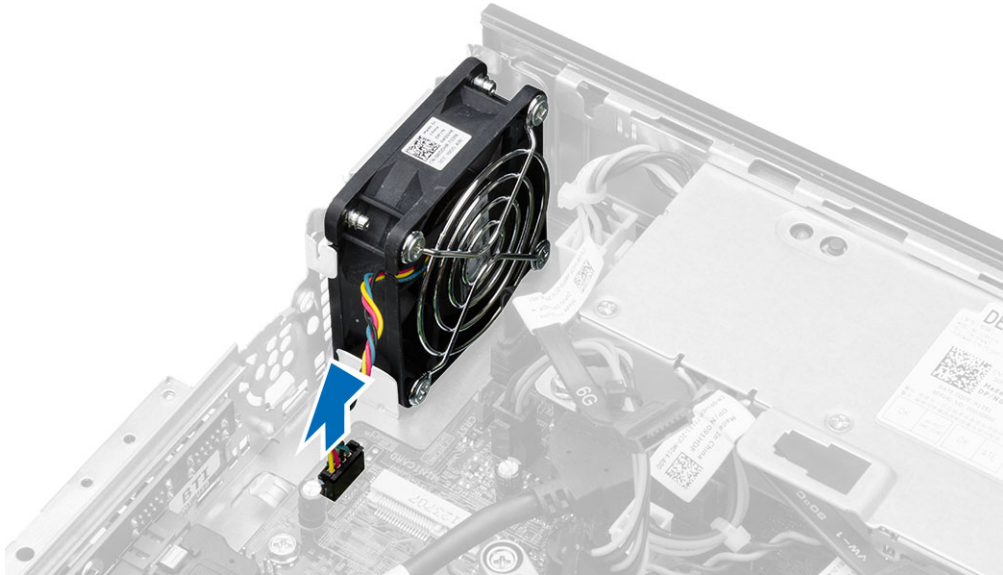
## コイン型バッテリーの取り付け

1. コイン型バッテリーをシステム基板のスロットに入れます。
2. リリースラッチのバネが所定の位置に戻るまで、コイン型バッテリーを押し下げて固定します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ヒートシンク

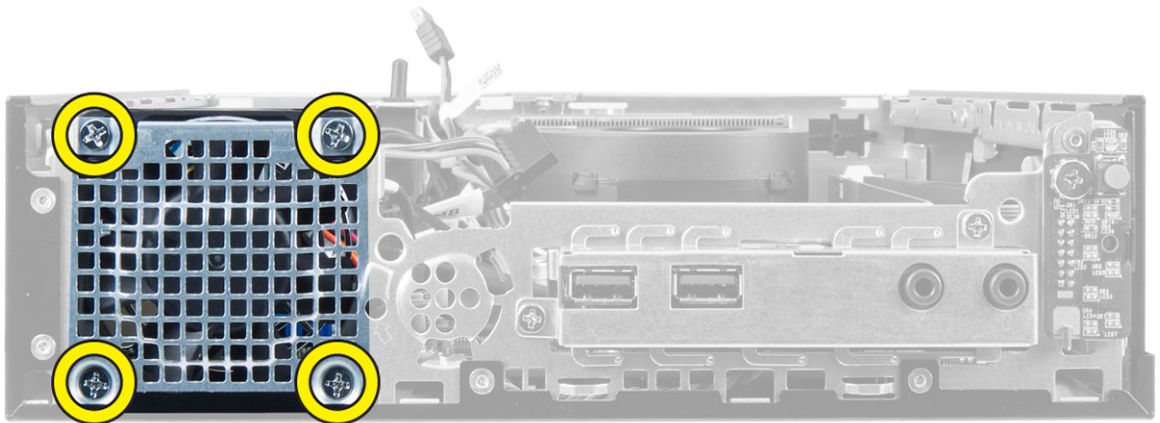
- b. ドライブケース
  - c. 前面ベゼル
  - d. カバー
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## システムファンの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
- a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケース
3. シャーシファンケーブルをシステム基板から取り外します。



4. ファンをシャーシに固定しているネジを外します。



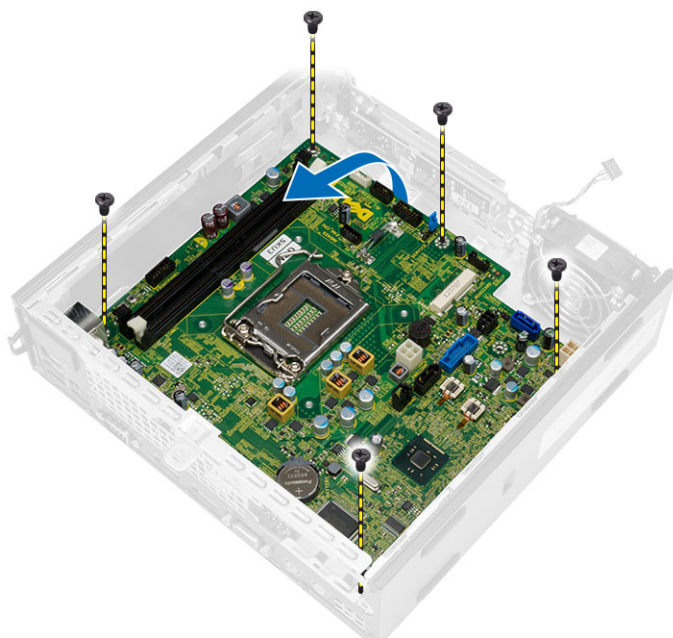
5. ファンをシャーシから取り外します。

## システムファンの取り付け

1. シャーシファンをシャーシにセットします。
2. ファンをシャーシに固定しているネジを締め付けます。
3. システム基板にシステムファンケーブルを接続します。
4. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. ドライブケージ
  - b. 前面ベゼル
  - c. カバー
5. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

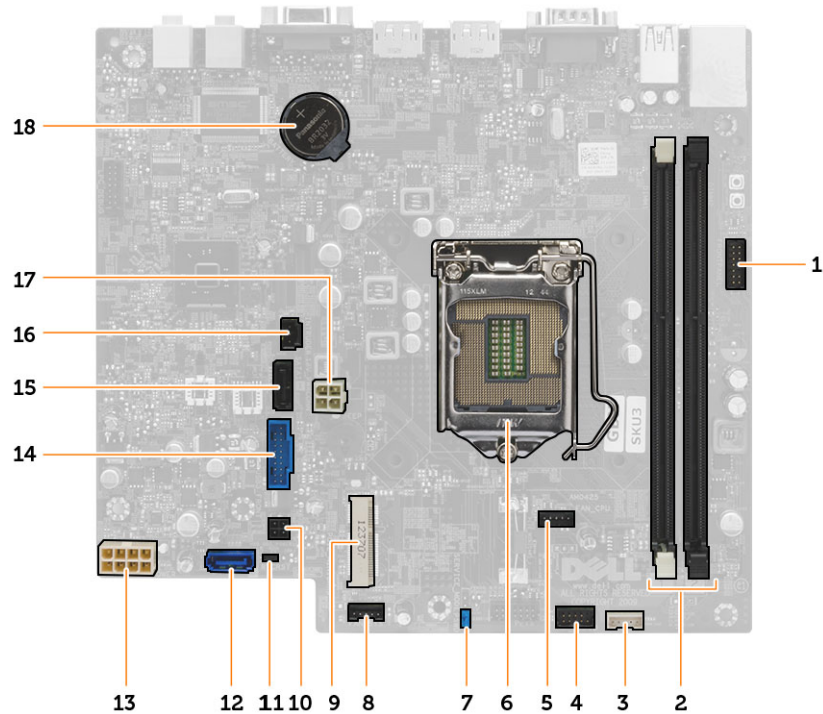
## システム基板の取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
  - a. カバー
  - b. 前面ベゼル
  - c. ドライブケージ
  - d. 電源ユニット
  - e. ヒートシンクアセンブリ
  - f. プロセッサ
  - g. メモリ
  - h. WLAN カード
  - i. I/O パネル
3. システム基板に接続されているすべてのケーブルを外し、システム基板をシャーシに固定しているネジを外します。システム基板を持ち上げてコンピューターから取り外します。



## システム基板のレイアウト

以下の画像はシステム基板レイアウトを示しています。



1. 前面ベゼル - 電源スイッチコネクタ
2. メモリモジュールコネクタ
3. 内蔵スピーカーコネクタ
4. 前面オーディオコネクタ
5. CPU ファンコネクタ
6. プロセッサソケット
7. パスワードジャンパ
8. システムファンコネクタ
9. PCIe ミニカード
10. HDD / ODD 電源コネクタ
11. リアルタイムクロックリセットジャンパ
12. SATA 0 コネクタ
13. 電源ユニットコネクタ
14. 前面 - USB コネクタ
15. SATA 1 コネクタ
16. インテル Junction スイッチコネクタ
17. 12V 電源コネクタ
18. コイン型電池

## システム基板の取り付け

1. システム基板とポートコネクタの位置を合わせ、シャーシにシステム基板をセットします。
2. システム基板をシャーシに固定するネジを締めます。
3. システム基板にすべてのケーブルを接続します。
4. 次のコンポーネントを取り付けます。
  - a. I/O パネル
  - b. WLAN カード
  - c. メモリ
  - d. プロセッサ
  - e. ヒートシンクアセンブリ
  - f. 電源ユニット
  - g. ドライブケージ
  - h. 前面ベゼル
  - i. カバー
5. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

## システムセットアップ

システムセットアップでコンピューターのハードウェアを管理し BIOS レベルのオプションを指定することができます。システムセットアップで以下の操作が可能です:

- ハードウェアの追加または削除後に **NVRAM** 設定を変更する。
- システムハードウェアの構成を表示する。
- 統合されたデバイスの有効/無効を切り替える。
- パフォーマンスと電力管理のしきい値を設定する。
- コンピューターのセキュリティを管理する。

## 起動順序

起動順序ではシステムセットアップで定義された起動デバイスの順序および起動ディレクトリを特定のデバイス (例: オプティカルドライブまたはハードドライブ) にバイパスすることができます。パワーオンセルフテスト(POST)中に、Dell のロゴが表示されたら、以下の操作が可能です:

- <F2> を押してシステムセットアップにアクセスする
- <F12> を押して 1 回限りの起動メニューを立ち上げる

1 回限りの起動メニューでは診断オプションを含むオプションから起動可能なデバイスを表示します。起動メニューのオプションは以下の通りです:

- リムーバブルドライブ(利用可能な場合)
- STXXXX ドライブ
  - **メモ:** XXX は、SATA ドライブの番号を意味します。
- オプティカルドライブ
- 診断
  - **メモ:** 診断を選択すると **ePSA 診断** 画面が表示されます。


起動順序画面ではシステムセットアップ画面にアクセスするオプションを表示することも可能です。

## ナビゲーションキー

以下の表ではシステムセットアップのナビゲーションキーを示しています。

- **メモ:** ほとんどのシステムセットアップオプションでは、変更内容は記録されますが、システムを再起動するまでは有効になりません。

表 1. ナビゲーションキー

キー	ナビゲーション
上矢印	前のフィールドに移動します。
下矢印	次のフィールドに移動します。
<Enter>	選択したフィールドに値を入力するか（該当する場合）、フィールド内のリンクに移動することができます。
スペースバー	ドロップダウンリストがある場合は、展開したり折りたたんだりします。
<Tab>	次のフォーカス対象領域に移動します。  <b>メモ:</b> 標準グラフィックブラウザ用に限られます。
<Esc>	メイン画面が表示されるまで、前のページに戻ります。メイン画面で<Esc>を押すと、未保存の変更を保存するプロンプトが表示され、システムが再起動します。
<F1>	システムセットアップユーティリティのヘルプファイルを表示します。

## セットアップオプション




 **メモ:** お使いのコンピュータと取り付けられているデバイスによっては、本項に一覧表示された項目とは異なる場合があります。

表 2. 一般

オプション	説明
System Information	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>システム情報：BIOS バージョン、サービスタグ、資産タグ、購入者タグ、購入日、製造日、エクスプレスサービスコードを表示します。</li> <li>メモリ情報：インストール済みのメモリ、使用可能なメモリ、メモリスピード、メモリチャネルモード、メモリテクノロジー、DIMM 1 サイズ、DIMM 2 サイズ、DIMM 3 サイズ、および DIMM 4 サイズを表示します。</li> <li>PCI 情報 - SLOT1、SLOT2、SLOT3、および SLOT4 を表示します。</li> <li>プロセッサ情報 - プロセッサのタイプ、コア数、プロセッサ ID、現在のクロックスピード、最小クロックスピード、最大クロックスピード、プロセッサ L2 キャッシュ、プロセッサ L3 キャッシュ、HT 対応、および 64 ビットテクノロジーを表示します。</li> <li>デバイス情報 - SATA-0、SATA-1、SATA-2、SATA-3、LOM MAC アドレス、オーディオコントローラおよびビデオコントローラを表示します。</li> </ul>
Boot Sequence	コンピュータがオペレーティングシステムを認識する順序を指定することができます。オプションは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Diskette Drive (ディスクドライブ)</li> <li>STXXXXXX / STXXXXXX</li> <li>USB Storage Device (USB ストレージデバイス)</li> <li>CD/DVD/CD-RW Drive (CD/DVD/CD-RW ドライブ)</li> <li>Onboard NIC (オンボード NIC)</li> </ul>
Advanced Boot Options	<ul style="list-style-type: none"> <li>Legacy (レガシー)</li> <li>UEFI</li> </ul>
Advance Boot Options	Enable Legacy Option ROMs (レガシーオプション ROM の有効化) (デフォルトでは有効)

オプション	説明
Date/Time	日付と時間を設定することができます。システムの日時変更はすぐに反映されます。

表 3. System Configuration (システム構成)

オプション	説明
Integrated NIC	<p>内蔵ネットワークカードを有効または無効にすることができます。Integrated NIC を以下のように設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Enable UEFI Network Stack (UEFI ネットワークスタックの有効化) (デフォルトでは無効)</li> <li>• 無効化</li> <li>• 有効化</li> <li>• Enabled w/PXE (デフォルト値)</li> <li>• Enabled w/Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効)</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> コンピュータおよび取り付けられているデバイスによっては、本項に一覧表示された項目が一部表示されない場合があります。</p>
Serial Port	<p>シリアルポートの設定を定義することができます。シリアルポートは次のように設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 無効</li> <li>• COM1</li> <li>• COM2</li> <li>• COM3</li> <li>• COM4</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> オペレーティングシステムは、設定が無効の場合でも、リソースを割り当てる場合があります。</p>
SATA Operation	<p>内蔵ハードドライブコントローラの動作モードを設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Disabled</b> (無効) - SATA コントローラは非表示</li> <li>• <b>ATA</b> - SATA は ATA モードに構成済み</li> <li>• <b>AHCI</b> - SATA は AHCI モードに構成済み</li> <li>• <b>RAID ON</b> - SATA は RAID モードをサポートするよう構成済み</li> </ul>
Drives	<p>各種オンボードドライブを有効または無効に設定することができます。</p> <p>ミニタワーの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SATA-0</li> <li>• SATA-1</li> <li>• SATA-2</li> <li>• SATA-3</li> </ul> <p>スモールフォームファクターの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SATA-0</li> <li>• SATA-1</li> <li>• SATA-2</li> </ul> <p>ウルトラスモールフォームファクター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• M-SATA</li> </ul>



オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SATA 0</li> <li>• SATA 1</li> </ul>
SMART Reporting	<p>このフィールドでは、内蔵ドライブのハードドライブエラーをシステム起動時に報告するかどうかを制御します。このテクノロジーは、SMART (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) 仕様の一部です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable SMART Reporting</b> (SMART レポートを有効にする) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</li> </ul>
USB Configuration	<p>このフィールドでは、内蔵 USB コントローラを設定します。 <b>Boot Support</b> (起動サポート) が有効な場合、システムはあらゆる種類の USB 大容量ストレージデバイス (HDD、メモリーキー、フロッピー) を起動することができます。USB ポートが有効な場合、このポートに接続されたデバイスは有効で、OS で使用することができます。USB ポートが無効な場合、OS はこのポートに接続されたどのデバイスも認識できません。</p> <p><b>USB Configuration :</b>  ミニタワー、スモールフォームファクターについて、オプションは以下の通りです：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable Boot Support</b> (起動サポートを有効にする)</li> <li>• <b>Enable Front USB 2.0 Ports</b> (前面 USB 2.0 ポートを有効にする)</li> <li>• <b>Enable USB 3.0 Ports</b> (USB 3.0 ポートを有効にする)</li> <li>• <b>Enable Rear—Left Dual USB 2.0 Ports</b> (背面 — 左デュアル USB 2.0 ポートを有効にする)</li> <li>• <b>Enable Rear—Right Dual USB 2.0 Ports</b> (背面 — 右デュアル USB 2.0 ポートを有効にする) (デフォルト値は有効)</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。</p>
Audio	<p>内蔵オーディオコントローラを有効または無効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable Audio</b> (オーディオを有効にする) (デフォルトでは有効)</li> </ul>
Miscellaneous Devices	<p>様々なオンボードデバイスを有効または無効にすることができます。(ミニタワーおよびウルトラスモールフォームファクターの場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable PCI Slot (PCI スロットを有効にする)</b> — このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</li> </ul>


表 4. セキュリティ

オプション	説明
Internal HDD_0 Password	<p>このフィールドでは、管理者 (admin) パスワード (セットアップパスワードと呼ばれる場合もある) を設定、変更、または削除します。管理者パスワードではいくつかのセキュリティ機能を有効にすることができます。ドライブにはデフォルトで設定されたパスワードはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enter the old password</b> (古いパスワードを入力する)</li> <li>• <b>Enter the new password</b> (新しいパスワードを入力する)</li> </ul>

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>Confirm the new password (新しいパスワードを確認する)</li> </ul>
Strong Password	<b>Enable strong password (強力なパスワードを有効にする)</b> - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。
Password Configuration	このフィールドでは、管理者パスワードおよびシステムパスワードで使用できる最小および最大文字数を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Admin Password Min (管理者パスワードの最小文字数)</li> <li>Admin Password Max (管理者パスワードの最大文字数)</li> <li>System Password Min (システムパスワードの最小文字数)</li> <li>System Password Max (システムパスワードの最大文字数)</li> </ul>
Password Bypass	システムの再起動時に <b>System Password</b> (システムパスワード) と内蔵 HDD パスワードの入力指示をスキップすることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled (無効) — パスワードが設定されると、システムおよび内蔵 HDD パスワード入力のダイアログが表示されます。このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</li> <li>Reboot Bypass (再起動時にスキップ) — 再起動時、パスワード入力のダイアログをスキップします (ウォームブート)。</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> オフの状態から電源を入れると (コールドブート)、システムはシステムパスワードと内蔵 HDD パスワードの入力を常に指示します。また、モジュールバイ HDD がある場合でも、パスワードの入力が常に指示されます。</p>
Password Change	管理者パスワードが設定されている場合、システムパスワードおよびハードディスクパスワードの変更を許可するかどうかを決定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Allow Non-Admin Password Changes (管理者以外のパスワードによる変更を許可)</b> - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</li> </ul>
TPM Security	このオプションでは、システムの TPM (Trusted Platform Module) を有効にし、オペレーティングシステムで認識されるようにするかどうかを制御します。 <b>TPM Security (TPM セキュリティ)</b> - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。 <b>TPM ACPI サポート</b> <b>TPM PPI Deprovision Override</b> <b>クリア</b> <b>TPM PPI Provision Override</b> <p> <b>メモ:</b> セットアッププログラムのデフォルト値を読み込んでも、<b>Activation</b> (アクティブ化)、<b>Deactivation</b> (非アクティブ化)、および <b>Clear</b> (クリア) のオプションには影響しません。このオプションが変更されると、すぐに反映されます。</p>
Computrace	このフィールドでは、オプションの <b>Absolute Software</b> 社が提供するオプションの <b>Computrace Service</b> の BIOS モジュールインタフェースをアクティブにまたは無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Deactivate (非アクティブ化)</b> - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</li> <li>Disable(無効化)</li> <li>Activate (アクティブ化)</li> </ul>

オプション	説明
Chassis Intrusion	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable (有効)</b> — このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</li> <li>• 無効</li> <li>• On-Silent (オンサイレント)</li> </ul>
CPU XD Support	<p>プロセッサの Execute Disable (実行無効) モードを有効または無効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable CPU XD Support (CPU XD サポートを有効にする)</b> - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</li> </ul>
OROM Keyboard Access	<p>起動中にホットキーを使用して OROM (Option Read Only Memory) 設定画面にアクセスするかどうか決定することができます。これらを設定することにより Intel RAID (CTRL+I) または Intel Management Engine BIOS Extension (CTRL+P/F12) へのアクセスを防ぐことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable (有効)</b> — ユーザーはホットキーを使用して OROM 構成画面を表示できます。</li> <li>• <b>One-Time Enable (1 回のみ有効)</b> - ユーザーは次の起動時にホットキーを使用して OROM 構成画面を表示できます。起動後、設定は無効に戻ります。</li> <li>• <b>Disable (無効)</b> - ユーザーはホットキーを使用して OROM 構成画面を表示することはできません。</li> </ul> <p>このオプションはデフォルトで<b>有効</b>に設定されています。</p>
Admin Setup Lockout	<p>管理者パスワードが設定されている場合、セットアップユーティリティを起動するオプションを有効または無効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable Admin Setup Lockout (管理者セットアップロックアウトの有効化)</b> - このオプションはデフォルトでは設定されていません。</li> </ul>
HDD Protection Support	<p>HDD 保護の機能を有効または無効にすることができます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• HDD Protection Support (HDD 保護のサポート)</li> </ul>

#### 表 5. Secure Boot (セキュアブート)

Secure Boot Enable	<p>セキュアブート機能を有効または無効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 無効</li> <li>• 有効</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> セキュアブートを有効にするには、UEFI ブートモードを有効にして、<b>Enable Legacy Option ROMs</b> を無効にするか、オフにする必要があります。</p>
Expert key Management	<p>システムが Custom Mode (カスタムモード) の場合のみ、セキュリティキーデータベースを操作できます。<b>Enable Custom Mode (カスタムモードを有効にする)</b> オプションはデフォルトで無効に設定されています。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PK</li> <li>• KEK</li> <li>• db</li> <li>• dbx</li> </ul>

**Custom Mode (カスタムモード)** を有効にすると、**PK、KEK、db、および dbx** の関連オプションが表示されます。このオプションは次のとおりです。

- **Save to File (ファイルに保存)** - ユーザーが選択したファイルにキーを保存します。
- **Replace from File (ファイルから交換)** - 現在のキーをユーザーが選択したファイルのキーと交換します。
- **Append from File (ファイルから追加)** - ユーザーが選択したファイルから現在のデータベースにキーを追加します。
- **Delete (削除)** - 選択したキーを削除します。
- **Reset All Keys (すべてのキーをリセット)** - デフォルト設定にリセットします。
- **Delete All Keys (すべてのキーを削除)** - すべてのキーを削除します。



 **メモ:** Custom Mode (カスタムモード) を無効にすると、すべての変更が消去され、キーはデフォルト設定に復元されます。

表 6. パフォーマンス

オプション	説明
Multi Core Support	<p>プロセスが 1 つまたはすべてのコアを有効にするかどうか指定します。コアを追加することでアプリケーションのパフォーマンスが向上する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべて - デフォルトで有効に設定</li> <li>• 1</li> <li>• 2</li> </ul>
Intel SpeedStep	<p>プロセッサの Intel SpeedStep モードを有効または無効に設定することができます。このオプションはデフォルトで有効です。</p>
C States Control	<p>プロセッサのスリープ状態を追加で有効または無効に設定することができます。このオプションはデフォルトで有効です。</p>
Limit CPUID Value	<p>このフィールドはプロセッサ標準 CPUID 機能によってサポートされる最大値を制限します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Enable CPUID Limit (CPUID の制限を有効にする)</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> 最大 CPUID 機能が 3 を超えると、一部のオペレーティングシステムのインストールが完了しません。</p>
Intel TurboBoost	<p>プロセッサの Intel TurboBoost モードを有効または無効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Disabled (無効)</b> — プロセッサのパフォーマンスステータスが標準以上に高くならないよう、TurboBoost ドライバを制御します。</li> <li>• <b>Enabled (有効)</b> — Intel TurboBoost ドライバが CPU またはグラフィックスプロセッサのパフォーマンスを向上することができます。</li> </ul>
Hyper-Thread Control	<p>Hyper-Threading テクノロジーを有効または無効に設定することができます。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</p>
Rapid Start Technology	<p>ユーザーが指定した時間が経つと自動的にシステムが低電力状態になるようにすると、バッテリー寿命を伸ばすことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Intel Rapid Start Feature (Intel ラピッドスタート機能)</li> </ul>




オプション	説明
	<p> <b>メモ:</b> Rapid Start Technology (ラピッドスタートテクノロジー) は以下の構成変更のため自動的に無効になります：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハードディスクの構成またはパーティションが変更されている</li> <li>8 GB を超えるメモリ容量がインストールされている</li> <li>システムまたは HDD のパスワードが有効になっている</li> <li>Dell Encryption Accelerator がインストールされている</li> <li>Block Sleep (ブロックスリープ) 設定が有効になっている</li> </ul>

表 7. 電源管理

オプション	説明
AC Recovery	<p>AC 電源遮断後に、AC 電源を投入したときのコンピュータの動作を指定します。AC Recovery を次のように設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Power Off (電源オフ) (デフォルト)</li> <li>電源オン</li> <li>Last Power State (直前の電源状態)</li> </ul>
Auto On Time	<p>このオプションでは、システムを自動的に起動する日時を設定します。時刻は標準の 12 時間形式 (時間 : 分 : 秒) です。時刻および A.M./P.M. フィールドに値を入力することで起動時刻を変更することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Disabled (無効)</b> - システムは自動的に電源オンにはなりません。</li> <li><b>Every Day (毎日)</b> - システムは上記で指定した時刻に毎日電源がオンになります。</li> <li><b>Weekdays (平日)</b> - システムは上記で指定した時刻に月曜日から金曜日に電源がオンになります。</li> <li><b>Select Days (選択した日)</b> - システムは上記で選択した日の上記で指定した時刻に電源がオンになります。</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> この機能は、電源タップのスイッチやサージプロテクタでコンピュータの電源をオフにした場合、または <b>Auto Power (自動電源)</b> が無効に設定されている場合は動作しません。</p>
Deep Sleep Control	<p>Deep Sleep (ディープスリープ) を有効にするタイミングの制御を定義することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled (無効)</li> <li>Enabled in S5 only (S5 のみで有効)</li> <li>Enabled in S4 and S5 (S4 と S5 で有効)</li> </ul> <p>このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
Fan Control Override	<p>システムファンのスピードをコントロールします。このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p> <p> <b>メモ:</b> 有効にすると、ファンは最大速度で動作します。</p>
USB Wake Support	<p>このオプションでは、USB デバイスがコンピュータを待機状態から起動させることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Enable USB Wake Support (USB ウェイクサポートの有効化)</b> - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</li> </ul>

オプション	説明
Wake on LAN	<p>このオプションでは、特殊な LAN 信号でトリガーすることで、コンピュータの電源をオフ状態からオンにすることができます。待機状態からのウェイクアップ（起動）は、この設定による影響はなく、オペレーティングシステムで有効にされている必要があります。この機能は、コンピュータが AC 電源に接続されている場合にのみ正常に動作します。このオプションはフォームファクターにより異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Disabled（無効）</b> - LAN またはワイヤレス LAN からウェイクアップ信号を受信すると、特殊な LAN 信号によるシステムの起動が許可されなくなります。</li> <li>• <b>LAN Only（LAN のみ）</b> - 特殊な LAN 信号によるシステムの起動を許可します。</li> <li>• <b>WLAN Only（WLAN のみ）</b> - 特殊な WLAN 信号によるシステムの起動を許可します。（ウルトラスモールフォームファクターのみ）</li> <li>• <b>LAN or PXE Boot（LAN または PXE Boot）</b> - 特殊な LAN または PXE 起動信号によるシステムの起動を許可します。（ウルトラスモールフォームファクターのみ）</li> </ul> <p>このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
Block Sleep	<p>このオプションでは、オペレーティングシステムの環境でスリープ（S3 状態）に入るのをブロックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Block Sleep（S3 state）（ブロックスリープ（S3 状態））</b> - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</li> </ul>
Intel Smart Connect Technology	<p>このオプションはデフォルトで無効に設定されています。オプションが有効の場合、システムがスリープ状態で近くのワイヤレス接続を定期的に感知します。これは、システムがスリープ状態になった時に開かれた E メールやソーシャルメディアアプリケーションを同期化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Smart Connection（スマート接続）</b></li> </ul>

表 8. POST Behavior（POST 動作）

オプション	説明
Numlock LED	システム起動時に NumLock 機能を有効にするかどうか指定します。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
Keyboard Errors	起動時にキーボード関連のエラーを報告するかどうか指定します。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
MEBx Hotkeys	<p>システムを起動する時に、MEBx ホットキー機能を有効にするかどうか設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable MEBx Hotkey（MEBx ホットキーを有効にする）</b> - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</li> </ul>

表 9. Virtualization Support（仮想化サポート）

オプション	説明
Virtualization	このオプションでは、Intel Virtualization technology（Intel VT）が提供する付加的なハードウェア機能を VMM（Virtual Machine Monitor）で使用できるようにするかどうかを指定します。

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable Intel Virtualization Technology (Intel VT の有効化)</b> - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</li> </ul>
VT for Direct I/O	<p>ダイレクト I/O 用に Intel® VT によって提供される付加的なハードウェア機能を VMM (Virtual Machine Monitor) が利用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enable Intel Virtualization Technology for Direct I/O (Direct I/O 向け Intel VT の有効化)</b> - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</li> </ul>
Trusted Execution	<p>このオプションでは、Intel Trusted Execution Technology が提供する付加的なハードウェア機能を、MVMM (Measured Virtual Machine Monitor) で使用できるかどうかを指定します。この機能を使用するには、TPM VT と VT for Direct I/O を有効にする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Trusted Execution</b> - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</li> </ul>

表 10. メンテナンス

オプション	説明
Service Tag	コンピュータのサービスタグを表示します。
Asset Tag	資産タグがまだ設定されていない場合、システム資産タグを作成することができます。このオプションはデフォルトでは設定されていません。
SERR Messages	SERR メッセージのメカニズムをコントロールします。このオプションはデフォルトで設定されていません。SERR メッセージのメカニズムが無効になっていることが必要なグラフィックスカードもあります。

表 11. クラウドデスクトップ

オプション	説明
Server Lookup Method	<p>ImageServer によるサーバーアドレスの検出方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Static IP (静的 IP)</li> <li>• DNS (デフォルトで有効)</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> このフィールドは、<i>System Configuration</i> (システム構成) グループの <i>Integrated NIC</i> (内蔵 NIC) コントロールが <i>Enabled with ImageServer</i> (ImageServer で有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Server IP Address	<p>クライアントソフトウェアが通信する ImageServer の主要な静的 IP アドレスを指定します。デフォルトの IP アドレスは <b>255.255.255.255</b> です。</p> <p> <b>メモ:</b> このフィールドは、<i>System Configuration</i> (システム構成) グループの <i>Integrated NIC</i> (内蔵 NIC) コントロールが <i>Enabled with ImageServer</i> (ImageServer で有効) に設定されており、<i>Lookup Method</i> (検出方法) が <i>Static IP</i> (静的 IP) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Server Port	ImageServer の主要な IP ポートを指定します。これはクライアントが通信するために使用します。デフォルトの IP ポートは、 <b>06910</b> です。



オプション	説明
	<p> <b>メモ:</b> このフィールドは、<i>System Configuration</i> (システム構成) グループの <i>Integrated NIC</i> (内蔵 NIC) コントロールが <i>Enabled with ImageServer</i> (ImageServer で有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Client Address Method	<p>クライアントによる IP アドレスの入手方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Static IP (静的 IP)</li> <li>• DHCP (デフォルトで有効)</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> このフィールドは、<i>System Configuration</i> (システム構成) グループの <i>Integrated NIC</i> (内蔵 NIC) コントロールが <i>Enabled with ImageServer</i> (ImageServer で有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Client IP Address	<p>クライアントの静的 IP アドレスを指定します。デフォルトの IP アドレスは <b>255.255.255.255</b> です。</p> <p> <b>メモ:</b> このフィールドは、<i>System Configuration</i> (システム構成) グループの <i>Integrated NIC</i> (内蔵 NIC) コントロールが <i>Enabled with ImageServer</i> (ImageServer で有効) に設定されており、<i>Client DHCP</i> (クライアント DHCP) が <i>Static IP</i> (静的 IP) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Client SubnetMask	<p>クライアントのサブネットマスクを指定します。デフォルトの設定は <b>255.255.255.255</b> です。</p> <p> <b>メモ:</b> このフィールドは、<i>System Configuration</i> (システム構成) グループの <i>Integrated NIC</i> (内蔵 NIC) コントロールが <i>Enabled with ImageServer</i> (ImageServer で有効) に設定されており、<i>Client DHCP</i> (クライアント DHCP) が <i>Static IP</i> (静的 IP) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Client Gateway	<p>クライアントのゲートウェイ IP アドレスを指定します。デフォルトの設定は <b>255.255.255.255</b> です。</p> <p> <b>メモ:</b> このフィールドは、<i>System Configuration</i> (システム構成) グループの <i>Integrated NIC</i> (内蔵 NIC) コントロールが <i>Enabled with ImageServer</i> (ImageServer で有効) に設定されており、<i>Client DHCP</i> (クライアント DHCP) が <i>Static IP</i> (静的 IP) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Advanced	<p>詳細なデバッグを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Verbose Mode (冗長モード)</li> </ul> <p> <b>メモ:</b> このオプションでは、<i>System Configuration</i> (システム構成) グループの <i>Integrated NIC</i> (内蔵 NIC) コントロールが <i>Cloud Desktop</i> (クラウドデスクトップ) で有効に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>

表 12. System Logs (システムログ)

オプション	説明
BIOS events	<p>システムイベントログを表示し、そのログをクリアすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ログのクリア</li> </ul>

## BIOS のアップデート

システム基板の交換時または更新が可能な場合、BIOS (システムセットアップ) をアップデートされることをお勧めします。ラップトップの場合、お使いのコンピューターのバッテリーがフル充電されていて電源プラグに接続されていることを確認してください。

1. コンピューターを再起動します。
2. [dell.com/support](http://dell.com/support) にアクセスします。
3. お使いのコンピューターのサービスタグまたはエクスプレスサービスコードをお持ちの場合、次の手順に従います。
  -  **メモ:** サービスタグの位置を確認するには、**サービスタグの場所**をクリックします。
  -  **メモ:** サービスタグが見つからない場合は、**サービスタグの検出**をクリックし、画面に表示される手順に従います。
4. **サービスタグ**や**エクスプレスサービスコード**を入力し、**送信**をクリックします。
5. サービスタグの位置が確認できない場合、またはサービスタグが見つからない場合は、お使いのコンピューターの製品カテゴリをクリックします。
6. リストから**製品の種類**を選択します。
7. お使いのコンピューターモデルを選択すると、コンピューターの**製品サポート**のページが表示されます。
8. **Drivers & Downloads** (ドライバとダウンロード) をクリックします。
9. ドライバとダウンロード画面で、**オペレーティングシステム**ドロップダウンリストから **BIOS** を選択します。
10. 最新の BIOS ファイルを選んで**ファイルをダウンロードします**をクリックします。
11. **Please select your download method below window** (ダウンロード方法を以下のウィンドウから選択してください) で希望のダウンロード方法を選択し、**ファイルのダウンロード**をクリックします。  
ファイルのダウンロードウィンドウが表示されます。
12. ファイルをコンピューターに保存する場合は、**保存**をクリックします。
13. **実行**をクリックしてお使いのコンピューターに更新された BIOS 設定をインストールします。  
画面の指示に従います。

## ジャンパの設定

ジャンパの設定を変更するには、ピンからプラグを抜きシステム基板に示されたピンに注意して取り付けます。以下の表ではシステム基板ジャンパの設定を示しています。

表 13. ジャンパの設定


ジャンパ	設定	説明
PSWD	デフォルト	パスワード機能が有効になっています
RTCST	ピン 1 および 2	リアルタイムクロックのリセット。トラブルシューティングに使用できます。

## システムパスワードとセットアップパスワード

システムパスワードとセットアップパスワードを作成してお使いのコンピューターを保護することができます。






システムセットアップを入力するには、電源投入または再起動の直後に <F2> を押します。

1. システム BIOS 画面またはシステムセットアップ画面で、システムセキュリティを選択し、<Enter> を押します。  
システムセキュリティ画面が表示されます。
2. システムセキュリティ画面でパスワードステータスがロック解除に設定されていることを確認します。
3. システムパスワードを選択し、既存のシステムパスワードを変更または削除して、<Enter> または <Tab> を押します。
4. セットアップパスワードを選択し、既存のセットアップパスワードを変更または削除して、<Enter> または <Tab> を押します。  
 **メモ:** システムパスワードおよび/またはセットアップパスワードを変更する場合、プロンプトが表示されたら新しいパスワードを再度入力してください。システムパスワードおよび/またはセットアップパスワードを削除する場合、プロンプトが表示されたら削除を確認してください。
5. <Esc> を押すと、変更の保存を要求するメッセージが表示されます。
6. <Y> を押して変更を保存しシステムセットアップを終了します。  
コンピューターが再起動します。

## システムパスワードを無効にする

システムのソフトウェアセキュリティ機能には、システムパスワードおよびセットアップパスワードが含まれています。パスワードジャンパは現在使用中のパスワードを無効にします。

 **メモ:** 以下の手順を使用して、忘れてしまったパスワードを無効にすることもできます。

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. カバーを取り外します。
3. システム基板の PSWD ジャンパを見つけます。
4. システム基板から PSWD ジャンパを取り外します。  
 **メモ:** コンピューターがジャンパなしで起動するまでは、既存のパスワードは無効化（消去）されません。
5. カバーを取り付けます。  
 **メモ:** PSWD ジャンパを取り付けた状態のまま新しいシステムパスワードとセットアップパスワードの両方またはどちらか一方を割り当てると、システムは次の起動時に新しいパスワードを無効にします。
6. コンピューターをコンセントに接続し、電源スイッチを入れます。
7. コンピューターの電源を切り、コンセントから電源ケーブルを取り外します。
8. カバーを取り外します。
9. システム基板の PSWD ジャンパを取り付けます。
10. カバーを取り付けます。
11. 「コンピューター内部の作業の後に」の手順に従います。
12. コンピューターの電源を入れます。
13. システムセットアップに進み、新しいシステムパスワードまたはセットアップパスワードを割り当てます。システムパスワードのセットアップを参照してください。


## 診断


コンピューターに問題が起こった場合、デルのテクニカルサポートに電話する前に **ePSA** 診断を実行してください。診断プログラムを実行する目的は、特別な装置を使用せず、データが失われる心配をすることなくコンピューターのハードウェアをテストすることです。お客様がご自分で問題を解決できない場合でも、サービスおよびサポート担当者が診断プログラムの結果を使って問題解決の手助けを行うことができます。

### ePSA（強化された起動前システムアセスメント）診断

ePSA 診断(システム診断としても知られている)ではハードウェアの完全なチェックを実施します。ePSAには BIOS が埋め込まれており、内部的に BIOS によって起動されます。埋め込まれたシステム診断では以下のことが可能な特定のデバイスまたはデバイスグループにオプションのセットを提供します:

- テストを自動的に、または対話モードで実行
- テストの繰り返し
- テスト結果の表示または保存
- 詳細なテストで追加のテストオプションを実行し、障害の発生したデバイスに関する詳しい情報を得る
- テストが問題なく終了したかどうかを知らせるステータスメッセージを表示
- テスト中に発生した問題を通知するエラーメッセージを表示

 **注意:** システム診断は、お使いのコンピューターをテストする場合にのみ使用してください。このプログラムを他のコンピューターで使用すると、無効な結果やエラーメッセージが発生する場合があります。

 **メモ:** 特定のデバイスについてはユーザーの対話が必要なテストもあります。診断テストを実行する際にコンピューター端末の前に常にいなければなりません。

1. コンピューターの電源を入れます。
2. コンピューターが起動すると、Dell のロゴが表示されるように <F12> キーを押します。
3. 起動メニュー画面で、**診断** オプションを選択します。  
ePSA 起動前システムアセスメントウィンドウが表示され、コンピューター内で検出された全デバイスがリストアップされます。診断が検出された全デバイスのテストを開始します。
4. 特定のデバイスで診断テストを実行する場合、<Esc> を押して **はい** をクリックし、診断テストを中止します。
5. 左のパネルからデバイスを選択し、**テストの実行** をクリックします。
6. 問題がある場合、エラーコードが表示されます。  
エラーコードをメモしてデルに連絡してください。

## コンピューターのトラブルシューティング

診断ライト、ビープコード、およびエラーメッセージなどのインジケータを使って、コンピューターの操作中にトラブルシューティングを行うことができます。

### 電源 LED 診断

シャシの前面にある電源ボタン LED は 2 色の診断 LED としても機能します。診断 LED は、POST プロセス中のみアクティブで目に見えます。オペレーティングシステムがロードを開始すると、表示されなくなります。橙色の LED 点滅配列 - 2 回または 3 回点滅した後で短時間の小休止、その後最大 7 回までの x 回点滅のパターンです。繰り返しのパターンには中間に長い休止が挿入されます。例えば、2、3 が意味するのは、2 回の橙色の点滅、小休止、3 回の橙色の点滅、その後長い休止の後、パターンが繰り返されます。

表 14. 電源 LED 診断

橙色の LED の状態	白色の LED の状態	説明
オフ	オフ	システムがオフ
オフ	点滅	システムがスリープ状態
点滅	オフ	電源ユニット (PSU) の障害
点灯	オフ	PSU は作動しているがコードのフェッチに失敗
オフ	点灯	システムがオン

橙色の LED の状態	説明
2、1	システム基板の障害
2、2	システム基板、PSU または PSU 配線の障害
2、3	システム基板、メモリまたは CPU の障害
2、4	コイン型バッテリーの障害
2、5	BIOS の破損
2、6	CPU 構成の障害または CPU の障害
2、7	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しています。
3、1	周辺機器カードまたはシステム基板に障害が発生している可能性があります。
3、2	USB に障害が発生している可能性があります。
3、3	メモリモジュールが検出されない。
3、4	システム基板エラーの可能性
3、5	メモリモジュールは検出されましたが、メモリの構成エラーまたは互換性エラーが存在します。

## 橙色の LED の状態 説明

- |     |  |
|-----|--|
| 3、6 | システム基板リソースおよびシステム基板ハードウェアのどちらかまたは両方に障害がある可能性があります。 |
| 3、7 | 画面上のメッセージのその他の障害                                   |

## ビープコード

ディスプレイがエラーや問題点を表示できない場合、コンピューターは起動中に各種ビープ音を発します。ビープコードと呼ばれるビープ音により、さまざまな問題を特定することができます。各ビープ音のディレイは 300 ms であり、各ビープ音セット同士のディレイは 3 秒で、300 ms 続きます。各ビープ音とビープ音のセットが鳴った後、BIOS が電源ボタンが押されたかどうかを検出します。BIOS はループからジャンプして、通常のシャットダウンプロセスとシステムの電源投入を実行します。

コード	1-3-2
原因	メモリの障害

## エラーメッセージ

### エラーメッセージ 説明

**Address mark not found** BIOS は障害のあるディスクセクターを検出しました。または、特定のディスクセクターを見つけられませんでした。

**Alert! Previous attempts at booting this system have failed at checkpoint [nnnn]. For help in resolving this problem, please note this checkpoint and contact Dell Technical Support** コンピューターは、同じエラーにより 3 回続けて、起動ルーティンを完了できませんでした。デルにご連絡の上、チェックポイントコード (nnnn) をサポート担当者に報告してください。

**Alert! Previous attempts at booting this system have failed at checkpoint [nnnn]. For help in resolving this problem, please note this checkpoint and contact Dell Technical Support**  
(警告! このシステムでは前回の起動時にチェックポイント [nnnn] で障害が発生しました。この問題を解決するには、このチェックポイントをメモしてデルテクニカルサポートにお問い合わせください)

**Alert! Security override Jumper is installed.** MFG\_MODE ジャンパがセットされており、AMT Management 機能は取り外されるまで、無効に設定されます。

エラーメッセージ	説明
<b>Attachment failed to respond</b>	フロッピーまたはハードドライブコントローラーはデータを関連づけられたドライブに送信できませんでした。
<b>Bad command or file name</b>	コマンドのスペルは正しいか、空白の位置は正しいか、パス名は正しいかを確認してください。
<b>Bad error-correction code (ECC) on disk read</b>	フロッピーまたはハードドライブコントローラーは修復不能な読み取りエラーを検出しました。
<b>Controller has failed</b>	ハードドライブまたは関連づけられたコントローラーが不良です。
<b>Data Error</b>	フロッピーまたはハードドライブはデータを読み取れません。Windows オペレーティングシステムの場合、chkdsk ユーティリティを実行して、フロッピーまたはハードドライブのファイル構造をチェックします。他のオペレーティングシステムの場合、適正な対応するユーティリティを実行します。
<b>Decreasing available memory</b>	1つ以上のメモリモジュールが故障しているか、適切に取り付けられていません。メモリモジュールを取り付け直し、必要があれば、交換します。
<b>Diskette drive 0 seek failure</b>	ケーブルが緩んでいるか、コンピューター設定情報がハードウェア設定と一致していない可能性があります。
<b>Diskette read failure</b>	フロッピーディスクが故障しているか、ケーブルが緩んでいる可能性があります。ドライブアクセスライトがオンの場合は、別のディスクを試してみてください。
<b>Diskette subsystem reset failed</b>	フロッピードライブコントローラーが不良の可能性があります。
<b>Gate A20 failure</b>	1つ以上のメモリモジュールが故障しているか、適切に取り付けられていません。メモリモジュールを取り付け直し、必要があれば、交換します。
<b>General failure</b>	オペレーティングシステムはコマンドを実行できません。通常、このメッセージには、 <b>プリンターの用紙がありません</b> など特定の情報が続きます。適切な処置により問題を解決してください。
<b>Hard-disk drive configuration error</b>	ハードディスクドライブの初期化に失敗しました。
<b>Hard-disk drive controller failure</b>	ハードディスクドライブの初期化に失敗しました。
<b>Hard-disk drive failure</b>	ハードディスクドライブの初期化に失敗しました。
<b>Hard-disk drive read failure</b>	ハードディスクドライブの初期化に失敗しました。
<b>Invalid configuration information-please run SETUP program</b>	コンピューターの設定情報がハードウェア構成と一致しません。
<b>Invalid Memory configuration, please populate DIMM1</b>	DIMM1 スロットがメモリモジュールを認識しません。モジュールを取り付け直すか、取り付けてください。
<b>Keyboard failure</b>	ケーブルまたはコネクタが緩んでいるか、キーボードまたはキーボード/マウスコントローラーに障害が発生している可能性があります。

エラーメッセージ	説明
<b>Memory address line failure at address, read value expecting value</b>	メモリモジュールが故障しているか、適切に取り付けられていません。メモリモジュールを取り付け直し、必要があれば、交換します。
<b>Memory allocation error</b>	実行しようとしているソフトウェアが、オペレーティングシステム、他のプログラム、またはユーティリティと拮抗しています。
<b>Memory data line failure at address, read value expecting value</b>	メモリモジュールが故障しているか、適切に取り付けられていません。メモリモジュールを取り付け直し、必要があれば、交換します。
<b>Memory double word logic failure at address, read value expecting value</b>	メモリモジュールが故障しているか、適切に取り付けられていません。メモリモジュールを取り付け直し、必要があれば、交換します。
<b>Memory odd/even logic failure at address, read value expecting value</b>	メモリモジュールが故障しているか、適切に取り付けられていません。メモリモジュールを取り付け直し、必要があれば、交換します。
<b>Memory write/read failure at address, read value expecting value</b>	メモリモジュールが故障しているか、適切に取り付けられていません。メモリモジュールを取り付け直し、必要があれば、交換します。
<b>Memory size in CMOS invalid</b>	コンピューターの設定情報に記録されているメモリ量がコンピューターにインストールされているメモリ量と一致しません。
<b>Memory tests terminated by keystroke</b>	キーストロークによりメモリテストが干渉されました。
<b>No boot device available</b>	コンピューターがフロッピーディスクまたはハードドライブを見つけられません。
ハードディスクドライブに起動セクタがありません	システムセットアップのコンピューター設定情報に誤りがあります。
<b>No timer tick interrupt</b>	システム基板のチップが誤動作している可能性があります。
<b>Non-system disk or disk error</b>	ドライブ A のフロッピーディスクに起動可能なオペレーティングシステムがインストールされていません。フロッピーディスクを起動可能なオペレーティングシステムがあるものに交換するか、ドライブ A からフロッピーディスクを取り出し、コンピューターを再起動します。
<b>Not a boot diskette</b>	起動可能なオペレーティングシステムがインストールされていないフロッピーディスクから起動しようとしています。起動可能なフロッピーディスクを挿入してください。
<b>Plug and play configuration error</b>	1 枚以上のカードを構成する際、コンピューターに問題が発生しました。

エラーメッセージ	説明
<b>Read fault</b>	オペレーティングシステムがフロッピードライブまたはハードドライブからデータを読み取れません。ディスク上の特定のセクターが見つからなかったか、要求されたセクターが不良です。
<b>Requested sector not found</b>	オペレーティングシステムがフロッピードライブまたはハードドライブからデータを読み取れません。ディスク上の特定のセクターが見つからなかったか、要求されたセクターが不良です。
<b>Reset failed</b>	ディスクを再セットできませんでした。
<b>Sector not found</b>	オペレーティングシステムがフロッピードライブまたはハードドライブ上のセクターを見つけることができません。
<b>Seek error</b>	オペレーティングシステムがフロッピーディスクまたはハードドライブ上の特定のトラックを見つけることができません。
<b>Shutdown failure</b>	システム基板のチップが誤動作している可能性があります。
<b>Time-of-day clock stopped</b>	バッテリーが故障している可能性があります。
<b>Time-of-day not set-please run the System Setup program</b>	システムセットアップで設定した時刻または日付がコンピューターの時計と一致しません。
<b>Timer chip counter 2 failed</b>	システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。
<b>Unexpected interrupt in protected mode</b>	キーボードコントローラーが誤動作しているか、メモリモジュールの接続に問題がある可能性があります。
<b>WARNING: Dell's disk monitoring system has detected that drive [0/1] on the [primary/secondary] EIDE controller is operating outside of normal specifications. it is advisable to immediately back up your data and replace your hard drive by calling your support desk or dell. (警告 : [プライマリ/セカンダリ] EIDE コントローラ上のドライブ [0/1] が、通常の仕様外の環境で動作していることを、デルのディスクモニターシステムが検</b>	初起動の際、ドライブがエラー状態を検出しました。コンピューターの起動が完了したら、データをバックアップし、ハードドライブを交換してください（インストールの手順については、お使いのコンピューターの「パーツの追加と削除」を参照）。交換用ドライブがすぐに入手できず、ドライブが起動可能ドライブではない場合、システムセットアップを起動し、ドライブ設定を <b>なし</b> に変更してください。コンピューターからドライブが取り外され（削除）ます。

エラーメッセージ 説明

知しました。すぐにデータをバックアップし、サポートデスクまたはデルに問い合わせ、ハードドライブを交換することをお勧めします。)

**Write fault**

オペレーティングシステムはフロッピーまたはハードドライブに書き込むことができません。

**Write fault on selected drive**

オペレーティングシステムはフロッピーまたはハードドライブに書き込むことができません。

## 仕様



 **メモ:** 提供される内容は地域により異なる場合があります。コンピューターの構成の詳細を確認するには、スタート  (スタートアイコン) → ヘルプとサポート の順にクリックし、お使いのコンピューターに関する情報を表示するオプションを選択してください。

表 15. プロセッサ

機能	仕様
プロセッサのタイプ	Intel Core i3/i5/i7 シリーズ
キャッシュ合計	プロセッサのタイプに応じて最大 8 MB キャッシュ

表 16. メモリ

機能	仕様
種類	DDR3
速度	1600 MHz
コネクタ:	
ミニタワー、スモールフォームファクター	DIMM スロット (4)
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	DIMM スロット x 2
容量	2 GB、4 GB、および 8 GB
最小メモリ	2 GB
最大搭載メモリ:	
ミニタワー、スモールフォームファクター	32 GB
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	16 GB

表 17. ビデオ

機能	仕様
内蔵	Intel HD グラフィックス 4600 (i3/i5/i7 DC/QC Intel 8 シリーズ Express チップセット CPU-GPU コンボ)
ディスクリート	PCI Express x16 グラフィックアダプター

表 18. オーディオ

機能	仕様
内蔵	チャンネルハイデフィニッションオーディオ (2)

表 19. ネットワーク

機能	仕様
内蔵	10/100/1,000 Mb/秒 通信対応 Intel I217 LM Ethernet

表 20. システム情報

機能	仕様
システムチップセット	Intel 8 シリーズ Express チップセット
DMA チャンネル	個別プログラム可能なチャンネル (7) 付 8237 DMA コントローラ (2)
割り込みレベル	24 割り込み対応内蔵 I/O APIC 機能
BIOS チップ (NVRAM)	12 MB

表 21. 拡張バス

機能	仕様
バスのタイプ	PCIe Gen2、Gen3 (x16)、USB 2.0、および USB 3.0
バススピード	PCI Express: <ul style="list-style-type: none"> <li>• x1 スロット双方向スピード - 500 MB / 秒</li> <li>• x16 スロット双方向スピード - 16 MB / 秒</li> </ul> SATA: 1.5 Gbps、3.0 Gbps、6 Gbps

表 22. カード

機能	仕様
PCI :	
ミニタワー	フルハイトカード最大 1 枚
SFF (スモールフォームファクター)	なし
USFF (ウルTRASモールフォームファクター)	なし
PCI Express x1 :	
ミニタワー	フルハイトカード最大 3 枚
SFF (スモールフォームファクター)	ロープロファイルカード最大 2 枚
USFF (ウルTRASモールフォームファクター)	なし
PCI-Express x16 :	

機能	仕様
ミニタワー	フルハイットカード最大 2 枚
SFF (スモールフォームファクター)	ロープロファイルカード最大 2 枚
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	なし
ミニ PCI Express :	
ミニタワー	なし
SFF (スモールフォームファクター)	なし
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	ミニカード最大 1 枚

表 23. ドライブ

機能	仕様	
外部アクセス可能 (5.25 インチドライブベイ)		
ミニタワー	2 つ	
SFF (スモールフォームファクター)	スリム光学ドライブベイ (1)	
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	スリム光学ドライブベイ (1)	
内部アクセス可能		
	3.5 インチ SATA ドライブベイ	2.5 インチ SATA ドライブベイ
ミニタワー	2 つ	2 つ
SFF (スモールフォームファクター)	(1)	2 つ
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	なし	(1)

表 24. 外部コネクタ

機能	仕様
オーディオ :	
フロントパネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイクコネクタ (1)</li> <li>ヘッドフォンコネクタ (1)</li> </ul>
背面パネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライン出力コネクタ (1)</li> <li>ライン入力/マイクコネクタ (1)</li> </ul>
ネットワークアダプター	RJ45 コネクタ x 1
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換 (1)
パラレル	25 ピンコネクタ (1) (ミニタワーおよびスモールフォームファクターのオプション)


機能	仕様
USB 2.0 :	
ミニタワー、スモールフォームファクター	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前面パネル : 2</li> <li>• 背面パネル : 4</li> </ul>
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前面パネル : なし</li> <li>• 背面パネル : 2</li> </ul>
USB 3.0 :	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前面パネル : 2</li> <li>• 背面パネル : 2</li> </ul>
ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 15 ピン VGA コネクタ</li> <li>• 20 ピン DisplayPort コネクタ (2)</li> </ul>
	 <b>メモ:</b> 使用可能なビデオコネクタは選択したグラフィックスカードによって異なります。

表 25. 内蔵コネクタ


機能	仕様
PCI 2.3 データ幅 (最大) : 32 ビット	
ミニタワー	120 ピンコネクタ (1)
スモールフォームファクター、およびウルトラスモールフォームファクター	なし
PCI Express x1 データ幅 (最大) : PCI Express レーン (1)	
ミニタワー	36 ピンコネクタ (1)
スモールフォームファクター、およびウルトラスモールフォームファクター	なし
PCI Express x16 (有線 x4) データ幅 (最大) : PCI Express レーン (4)	
ミニタワー	164 ピンコネクタ (1)
SFF (スモールフォームファクター)	64 ピンコネクタ (1)
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	なし
PCI Express x16 データ幅 (最大) : 16 PCI Express レーン	
ミニタワー、スモールフォームファクター	164 ピンコネクタ (1)
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	なし
ミニ PCI Express データ幅 (最大) : PCI Express レーン (1) 、 USB インターフェース (1)	
ミニタワー、スモールフォームファクター	なし
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	52 ピンコネクタ (1)
シリアル ATA :	
ミニタワー	7 ピンコネクタ (4)

機能	仕様
SFF (スモールフォームファクター)	7 ピンコネクター (3)
USFF (ウルTRASモールフォームファクター)	7 ピンコネクター (2)
メモリ :	
ミニタワー、スモールフォームファクター	240 ピンコネクター (4)
USFF (ウルTRASモールフォームファクター)	240 ピンコネクター (2)
内蔵 USB :	
ミニタワー	10 ピンコネクター (1)
スモールフォームファクター、およびウルTRASモールフォームファクター	なし
システムファン	5 ピンコネクター 1 個
前面パネルコントロール :	
ミニタワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 6 ピンコネクター (1)</li> <li>• 20 ピンコネクター (2)</li> </ul>
SFF (スモールフォームファクター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 6 ピンコネクター (1)</li> <li>• 10 ピンコネクター (1)</li> <li>• 12 ピンコネクター (1)</li> <li>• 20 ピンコネクター (1)</li> </ul>
USFF (ウルTRASモールフォームファクター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 14 ピンコネクター (1)</li> <li>• 20 ピンコネクター</li> <li>• 10 ピンコネクター (1)</li> </ul>
ミニタワー — 熱センサー	2 ピンコネクター (1)
プロセッサ	1150 ピンコネクター (1)
プロセッサファン	5 ピンコネクター 1 個
サービスモードジャンパー	2 ピンコネクター (1)
パスワードクリアジャンパー	2 ピンコネクター (1)
RTC リセットジャンパー	2 ピンコネクター (1)
内蔵スピーカ	5 ピンコネクター 1 個
イントルーダコネクター	3 ピンコネクター (1)
電源コネクター :	
ミニタワー、スモールフォームファクター	8 ピンコネクター (1)、4 ピンコネクター (1)、6 ピンコネクター (1)
USFF (ウルTRASモールフォームファクター)	8 ピンコネクター (1)、4 ピンコネクター (1)、4 ピンコネクター (1)

表 26. コントロールおよびライト

機能	仕様
コンピューターの前面：	
電源ボタンライト	白色のライト — 白色の点灯は、電源オンの状態を示します。白色の点滅は、コンピューターがスリープ状態であることを示します。
ドライブアクティビティライト	白色のライト — 白色の点滅は、コンピューターがハードドライブからデータを読み取っている、またはハードドライブにデータを書き込んでいることを示します。
コンピューターの背面：	
リンクインテグリティライト (内蔵ネットワークアダプター上)	<p>緑色 — ネットワークとコンピューターとの間で 10 Mbps の接続が良好であることを示します。</p> <p>緑色 — ネットワークとコンピューターとの間で 100 Mbps の接続が良好であることを示します。</p> <p>橙色 — ネットワークとコンピューターとの間で 1000 Mbps の接続が良好であることを示します。</p> <p>オフ (消灯) — コンピューターはネットワークに物理的に接続されていることを検出していません。</p>
ネットワーク動作ライト (内蔵ネットワークアダプター上)	黄色のライト — 黄色の点滅は、ネットワークが動作していることを示します。
電源ユニット診断ライト	緑色のライト — 電源が入っており、機能していることを示します。電源ケーブルは電源コネクタ (コンピューターの背面) とコンセントに接続してください。

表 27. 電源

 メモ: 熱放散は電源のワット数定格に基づいて算出されています。

電源	ワット数	最大熱消費	電圧
ミニタワー	290 W	989.00 BTU/時	100 VAC ~ 240 VAC、50 Hz ~ 60 Hz、5.4 A
SFF (スモールフォームファクター)	255 W	870.00 BTU/時	100 VAC ~ 240 VAC、50 Hz ~ 60 Hz、4.6 A
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	200 W	682.40 BTU/時	100 VAC ~ 240 VAC、50 Hz ~ 60 Hz、2.9 A
コイン型バッテリー		3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー	


表 28. 寸法

物理的仕様	高さ	幅	奥行き	重量
ミニタワー	36.00 cm (14.17 インチ)	17.50 cm (6.89 インチ)	41.70 cm (16.42 インチ)	9.40 kg (20.72 ポンド)
SFF (スモールフォームファクター)	29.00 cm (11.42 インチ)	9.30 cm (3.66 インチ)	31.20 cm (12.28 インチ)	6.00 kg (13.22 ポンド)
USFF (ウルトラスモールフォームファクター)	23.70 cm (9.33 インチ)	6.50 cm (2.56 インチ)	24.00 cm (9.45 インチ)	3.30 kg (7.28 ポンド)

表 29. 環境


機能	仕様
温度範囲 :	
動作時	5 ~ 35 °C (41 °F ~ 95 °F)
ストレージ	-40 ~ 65 °C (-40 ~ 149 °F)
相対湿度 (最大) :	
動作時	20 ~ 80 パーセント (結露しないこと)
ストレージ	5 ~ 95 パーセント (結露しないこと)
最大振動 :	
動作時	0.26 GRMS
ストレージ	2.20 GRMS
最大衝撃 :	
動作時	40 G
ストレージ	105 G
高度 :	
動作時	-15.2 ~ 3048 m (-50 ~ 10,000 フィート)
ストレージ	-15.20 ~ 10,668 m (-50 ~ 35,000 フィート)
空気中浮遊汚染物質レベル	G1、または ANSI/ISA-S71.04-1985 が定める規定値以内

## デルへのお問い合わせ

 **メモ:** デルでは、オンラインおよび電話ベースのサポートとサービスオプションをいくつかご用意しています。アクティブなインターネット接続がない場合は、ご購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデル製品カタログで連絡先をご確認いただけます。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。

デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. [dell.com/contactdell](https://dell.com/contactdell) にアクセスします。
2. インタラクティブな世界地図からお住まいの国または地域を選択します。  
地域を選択すると、選択した地域内の国が表示されます。
3. 選択した国の下にある適切な言語を選択します。
4. 管轄の営業セグメントを選択します。  
選択したセグメントのメインサポートページが表示されます。
5. 必要に応じて、適切なオプションを選択します。

 **メモ:** Dell システムをご購入いただいた場合は、サービスタグを要求される場合があります。